

Design for “Green Well-Being”

環境政策と市民の幸福を両立させる、新たな都市デザインへの道筋

2026年2月13日

一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事 南雲岳彦

慶応義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特別招聘教授 兼 システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授

京都大学経営管理大学院 客員教授



Well-Being City BSC™ | CAMILT™ | Homo Obliviscens™ © 2025 Takehiko Nagumo.
All Rights Reserved. Unauthorized reproduction or use is prohibited.

自己紹介 南雲岳彦



- 一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事
- 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘教授
同大学システムデザイン・マネジメント研究科 特任教授
- 京都大学経営管理大学院 客員教授
- 横浜市立大学 特任教授
- 国連・政府の審議会委員、自治体の政策アドバイザー
- 三菱UFJリサーチ&コンサルティング 専務執行役員
- ウェルビーイング学会 理事

アジェンダ

1. 【課題】 人と自然環境のウェルビーイングは、両立可能か？
2. 【手法】 ウェルビーイングに基づく都市経営のアプローチ
3. 【経験】 スマートシティの実践経験から学ぶ

問題の構造を知る

人と自然環境のウェルビーイングは、両立可能か？

世界の現状



- 本研究の根源的な問い：市民による環境配慮行動が、市民自身の幸福度を高めるという正の循環は成立するのか？
- 理念ではなく、実践で「環境配慮行動 ⇒ 幸福度」という因果連鎖を確立することは可能か？
- そして、向上した市民の幸福度が、さらなる環境配慮行動を促す好循環を生み出すことは可能か？

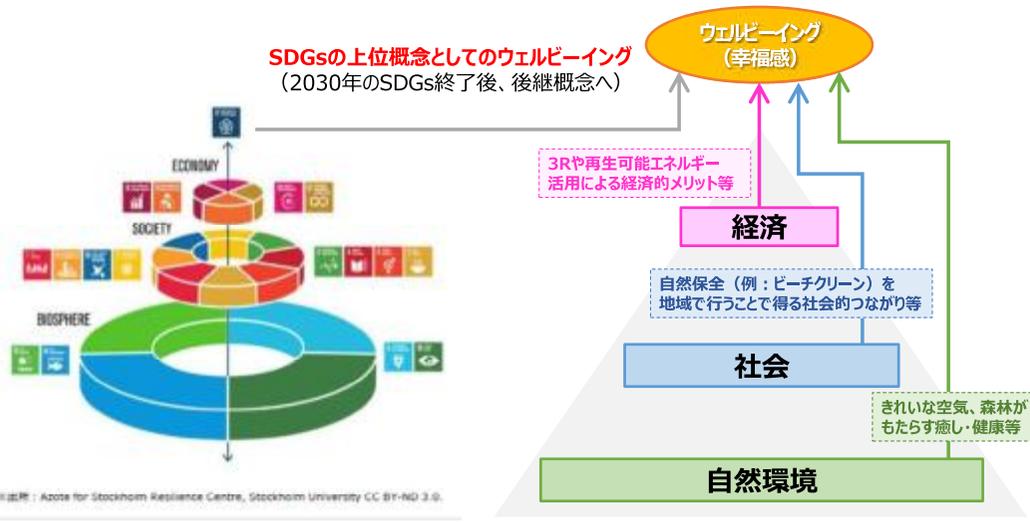
5

6

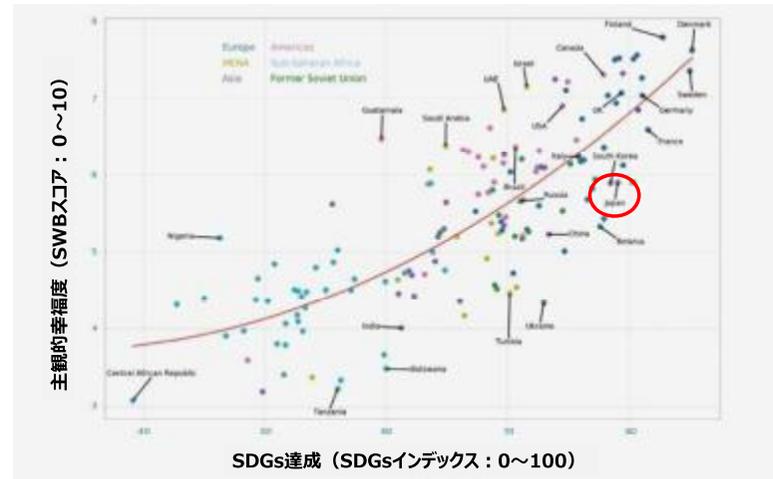
世界的な思考枠組みの方向性 SDGsの達成がウェルビーイングに繋がる仕組みの構築。トリプルボトムラインと幸福度を因果連鎖で繋ぐことができるか？

一見すると、世界は「豊かさ = 幸福 = SDGs達成」という正しい道筋に見えるように見える・・・

https://happiness-report.s3.amazonaws.com/2020/WHR20_Ch6.pdf



【SDGs達成度と主観的幸福度の関係】



- キーインサイト
- **強い正の相関性**：両指標には、極めて強い正の相関がみられる（相関係数 +0.79）。
 - **豊かな国々が牽引**：フィンランドなど北欧諸国をはじめ、経済的に豊かな国が右上に位置する。
 - **導かれる「物語」**：このデータは、「経済発展しSDGsを達成すれば、人は幸せになれる」という物語を裏付けているように見える。

7

8

しかし、データは不都合な真実を暴く： 幸福は地球環境への負荷と引き換えに成立している

https://happiness-report.s3.amazonaws.com/2020/WHR20_Ch6.pdf

主観的幸福度と各SDGsゴールの相関分析

SDG	REGION					
	EU	Europe	Former Soviet Union	Asia	MENA	Sub-Saharan Africa
1 No Poverty	0.65*	0.49*	-0.03	0.44	0.22	0.50*
2 Zero Hunger	0.52*	0.44	0.30	0.41	0.70*	0.23
3 Good Health and Well-being	0.77*	0.76*	0.40	0.69*	-0.27	0.38
4 Quality Education	0.64*	0.86*	0.12	0.55*	-0.67*	0.15
5 Gender Equality	0.81*	0.78*	0.55	0.89*	0.75*	-0.29
6 Clean Water and Sanitation	0.73*	0.69*	0.38	0.81*	0.26	0.01
7 Affordable and Clean Energy	0.69*	0.40	-0.40	0.72*	0.47	0.51*
8 Economic Growth	0.66*	0.82*	0.88*	0.54*	-0.77*	0.24
9 Industry, Innovation and Infrastructure	0.80*	0.90*	0.39	0.78*	-0.80*	0.33
10 Reduced Inequality	0.52*	0.72*	0.06	0.12	0.01	0.07
11 Sustainable Cities and Communities	0.74*	0.61	0.56*	0.06	0.00	0.72*
12 Responsible Consumption and Production	-0.75*	-0.69*	-0.39	-0.76*	-0.80*	-0.26
13 Climate Action	-0.10	-0.18	-0.39	-0.54*	-0.73*	-0.10
14 Life Below Water	-0.02	0.32	0.44	0.16	-0.14	-0.02
15 Life on Land	0.05	-0.06	0.00	-0.11	-0.24	-0.06
16 Peace, Justice and Strong Institutions	0.69*	0.89*	0.12	0.72*	-0.73*	0.06
17 Partnerships for the Goals	0.16	-0.02	-0.28	0.27	-0.21	-0.04
ALL	0.78*	0.78*	0.37	0.74*	0.55	0.32

強い正の相関（人間社会の発展）
健康と福祉の充実 (Goal 3: +0.77), インフラや産業の発展 (Goal 9: +0.80) などが幸福度を強く押し上げている。

極めて強い負の相関（地球環境の破壊）
つくる責任つかう責任 (Goal 12: -0.75), 気候変動に具体的な対策を (Goal 13: -0.35) など、環境関連目標は幸福度を下げている。

衝撃的な結論：現在の世界では「幸福度が高い国」ほど、大量生産・大量消費を行い、気候変動を加速させている。私たちの幸福は、地球環境への負荷と引き換えに成立している。

SDGsの進捗状況：日本（19位）・フィンランド（1位）

<https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment-report/2025/sustainable-development-report-2025.pdf>



SDGsの進捗状況：アメリカ合衆国（44位）・ブラジル（54位）

<https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment-report/2025/sustainable-development-report-2025.pdf>



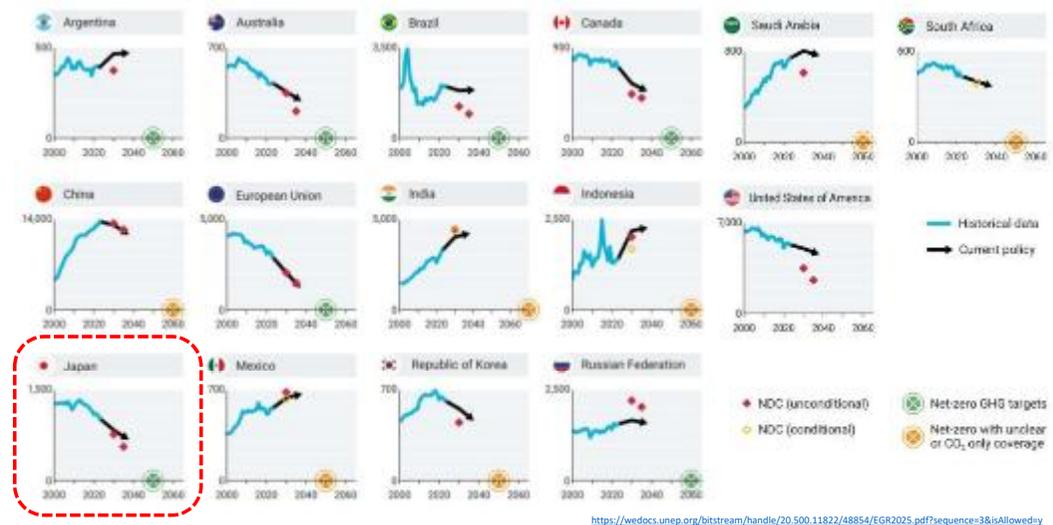
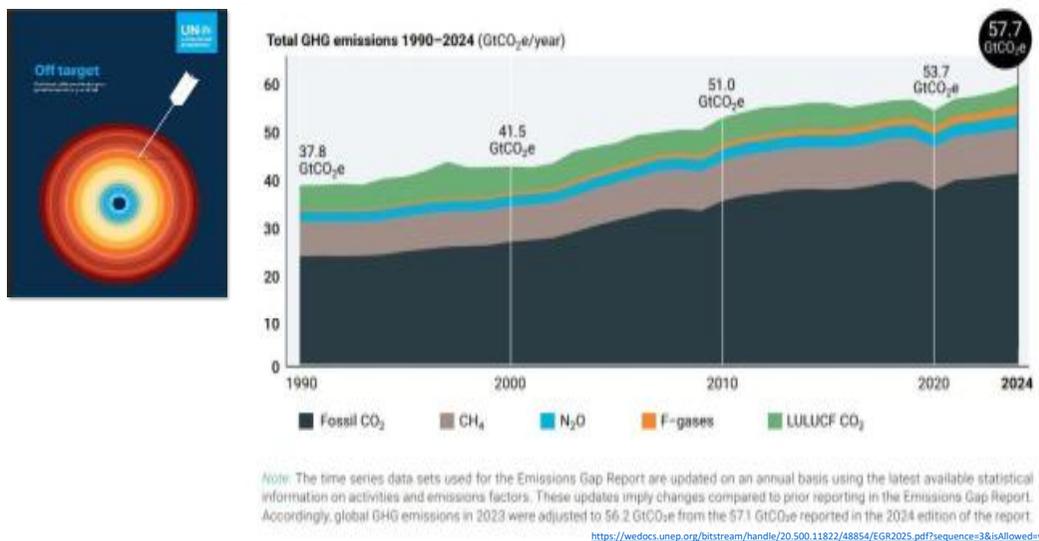
SDGsの進捗状況：中国（49位）・インド（99位）

<https://s3.amazonaws.com/sustainabledevelopment-report/2025/sustainable-development-report-2025.pdf>



【不都合な真実】 さらにも過去最高を更新 - 世界の温室効果ガス排出量は57.7 GtCO_{2e}に達し、前年比2.3%の増加となった

急速な脱炭素化の政策実行がなければ、G20は温室効果ガス排出削減目標（NDC）およびネットゼロ目標には到底達成しない

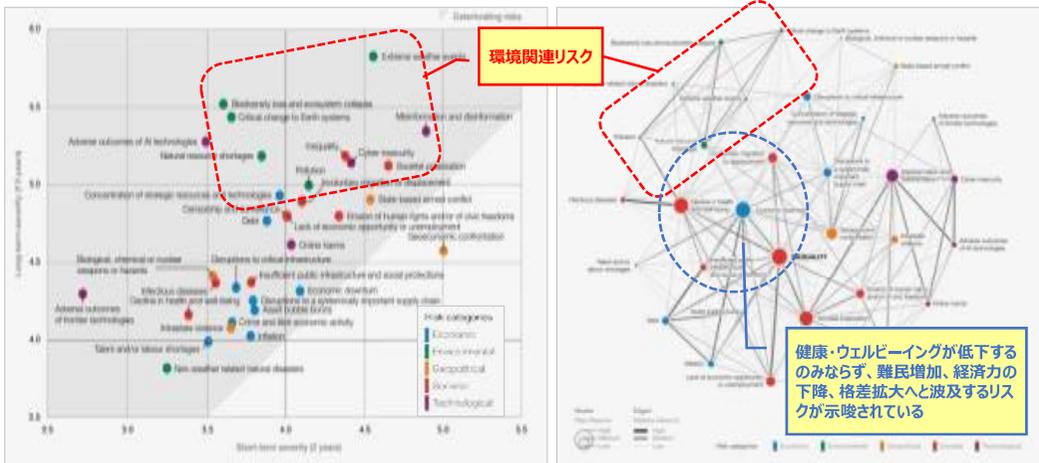


WEF Global Risk Report 2026 環境関連リスクは、最上位の深刻さに位置づけられており、かつ健康・ウェルビーイング・リスクと密接に関連している

われわれは、この「豪華なパーティー」をどう続けるのか？

【グローバルリスクの全体像】

【リスク間の相互の関連性】



私たちの現状 私たちは豪華な「パーティー会場」で幸福を感じている。

その裏側 会場の汚損と食料庫の枯渇（地球環境の悪化）が急速に進んでいる。

幸福の代償 私たちの幸福は、地球への「負債」と引き換えに成立している。

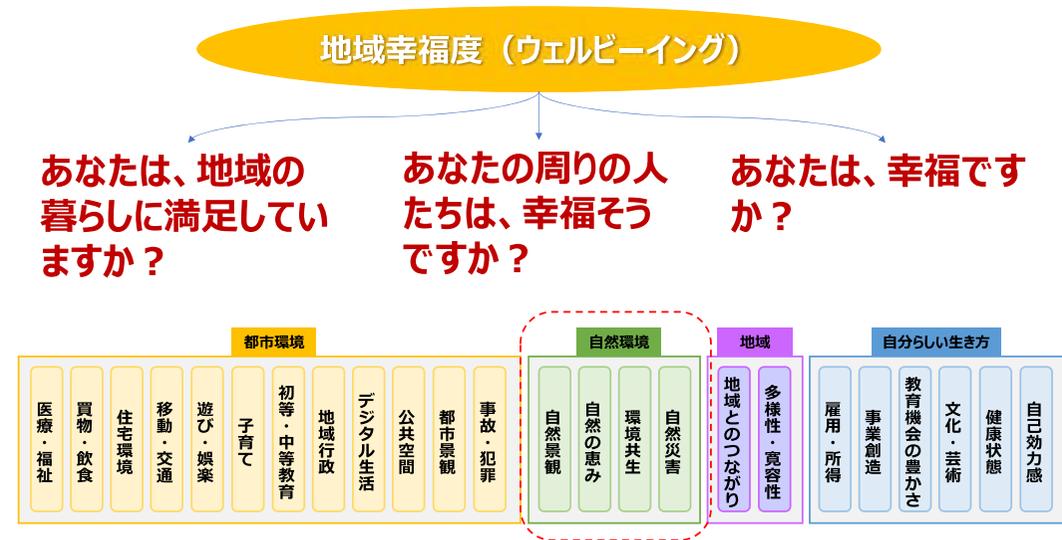
本研修のミッション

✗ 我慢ではない：パーティーを中止して「我慢」する。

◎ 質の転換：パーティーの質（人生の幸福度）を維持したまま、環境を再生するスタイルへ移行する。

Growth (成長) → Thriving (繁栄)

日本ではどうか？



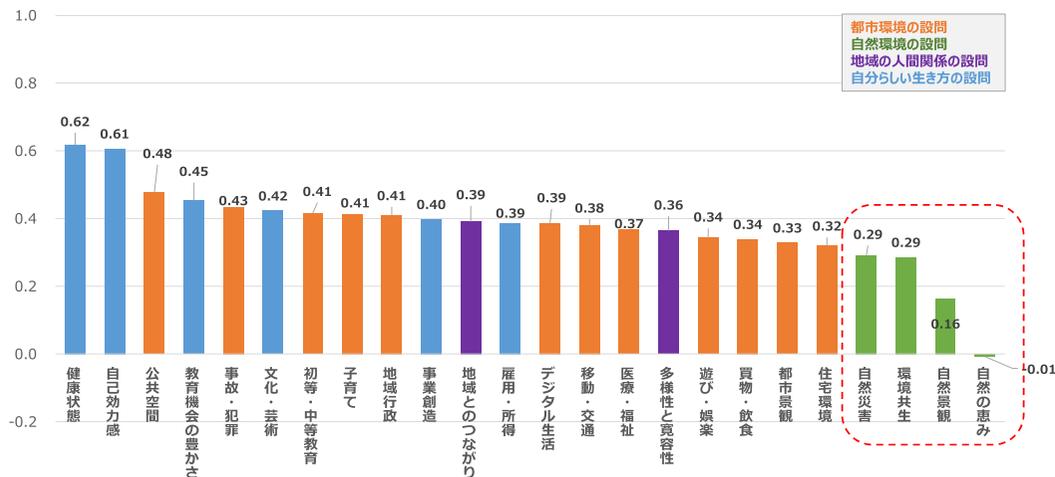
17

18

【相関分析】日本人の幸福度に環境意識は、関係が薄い・・・

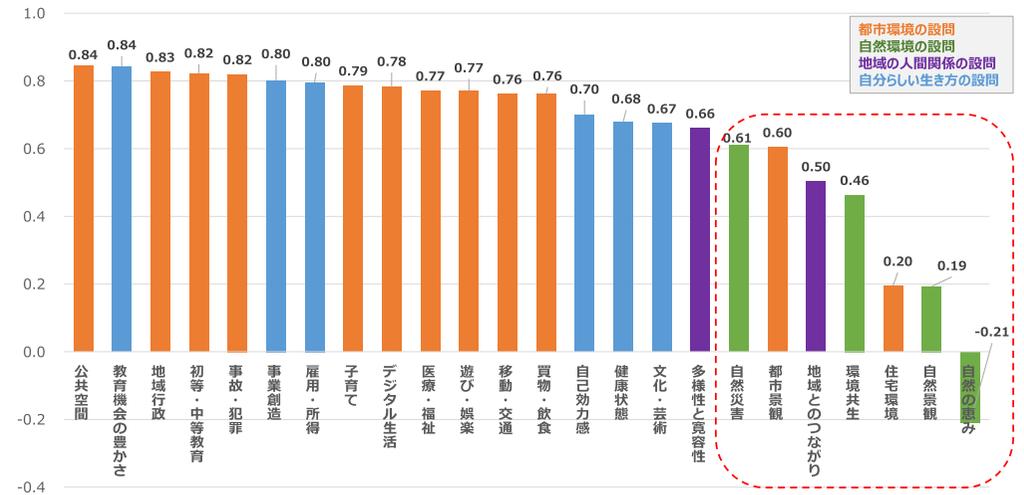
【相関分析】生活満足度にも関係が薄い。しかも自然の恵みは逆相関を示す

幸福度と主観因子スコアの相関係数



19

生活満足度と主観因子スコアの相関係数

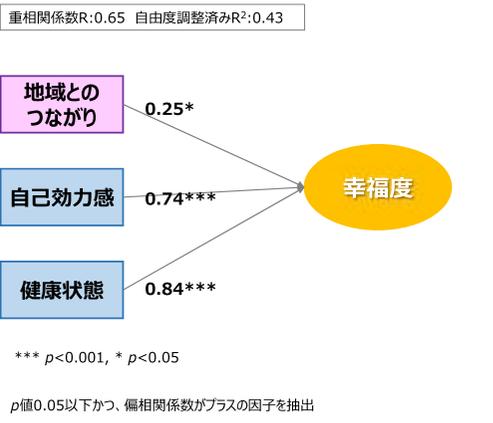


20

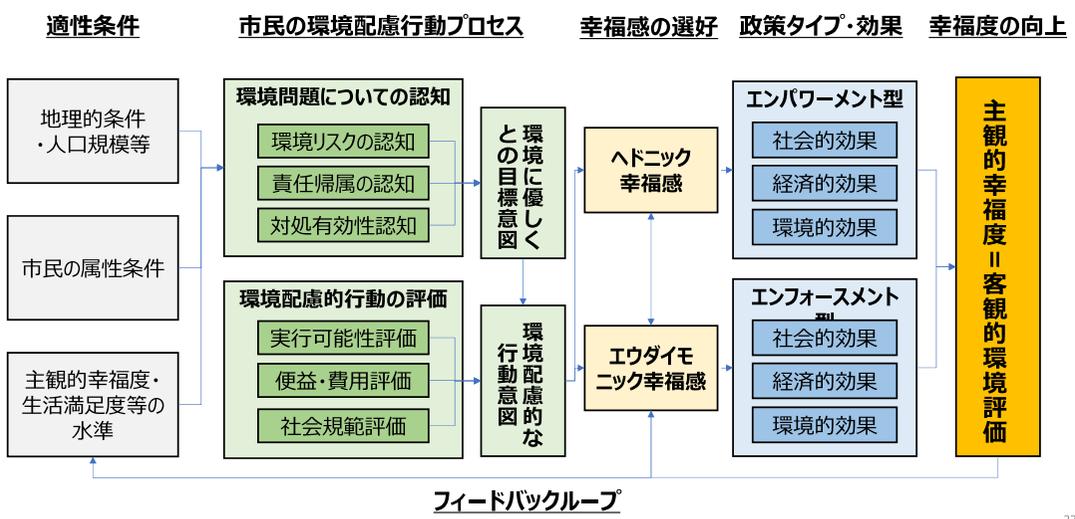
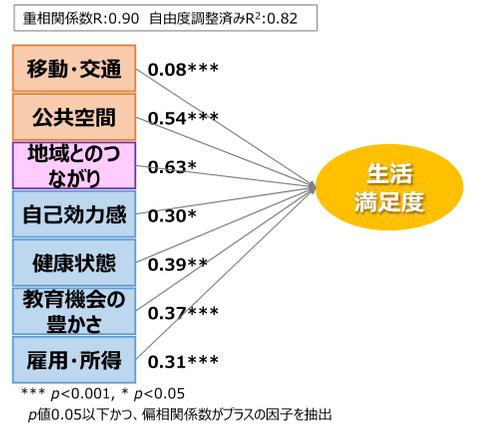
重回帰分析でも、幸福度・生活満足度に環境意識はつながりを示さない

環境意識と幸福度との関係は、障害物競走のような構図となっている・・・

幸福度

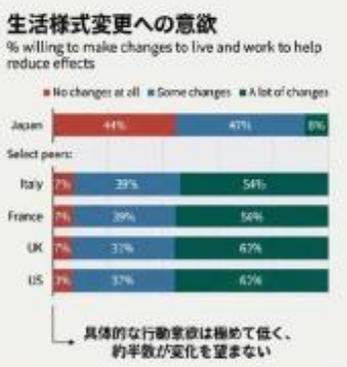
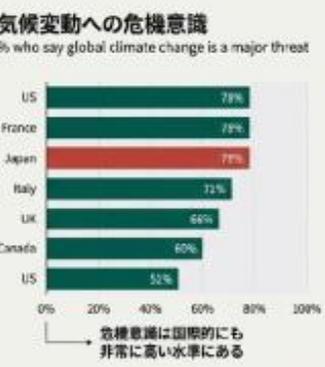


生活満足度



日本のジレンマ：環境意識は高いが、行動が伴わない「アクション・ギャップ」

一見、矛盾する日本人の環境行動

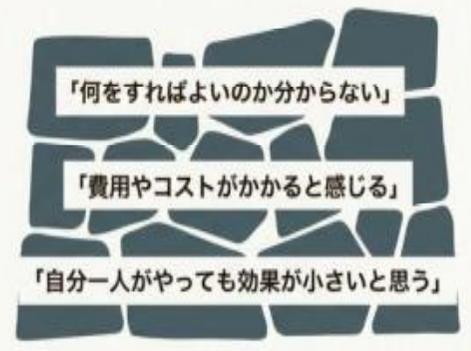


インサイトの要約:
 高い危機意識: 日本人の多くは気候変動を重大な脅威と認識している。
 低い行動意欲: しかし、生活様式の変更や具体的な行動への意欲は国際的に見ても極めて低い。
 低い期待感: 政府や企業への行動要請も弱く、当事者意識が希薄である。
 問い: なぜこの「意識」と「行動」の間に深い溝が存在するのか？

危機意識は世界トップクラス



しかし、行動には壁がある



例外は、「もったいない」に根差した行動

内閣府「気候変動に関する世論調査」および「環境教育に関する世論調査」

日常生活で行っている脱炭素社会の実現に向けた取組
問6. 「脱炭素社会」の実現に向け、あなたが日常生活の中で、現在、取り組んでいることは何がありますか。(□はいくつでも)

	回答者数	
	人	%
こまめな省灯等による電気消費量の削減*	1,766	66.5
定着・適切な温度管理*	1,766	60.9
こまめな省灯等による電気消費量の削減*	1,746	60.7
定着・適切な温度管理*	1,069	59.9
定着・適切な温度管理*	520	37.8
電気自動車温度管理*	434	13.4
電気に省灯こと	421	11.3
健康の少り遠慮すること	98	8.5
その他	43	0.2
合計	1,766	100.0

*1 回答者の複数回答は、+9回、計数を含む。



なぜ「地球のため」の行動はためられ、「もったいない」を原動力とする行動は広く定着しているのか？

環境に配慮した生活習慣や行動として、どのようなことを行っていますか。

	回答者数	
	人	%
食品ロスを減らすこと*	1,666	77.8
電気やガスの節約*	1,666	72.4
電気やガスの節約*	1,663	72.7
電気の節電こと	1,012	73.8
環境に配慮を減らすこと	994	21.6
電気料金からこと	222	13.8
生活習慣などの種類を生活すること	170	9.3
電気の可能性を認識していること	137	7.4
環境に配慮した生活習慣こと	109	6.8
その他	42	1.3
合計	1,666	100.0

*1 回答者の複数回答は、+9回、計数を含む。

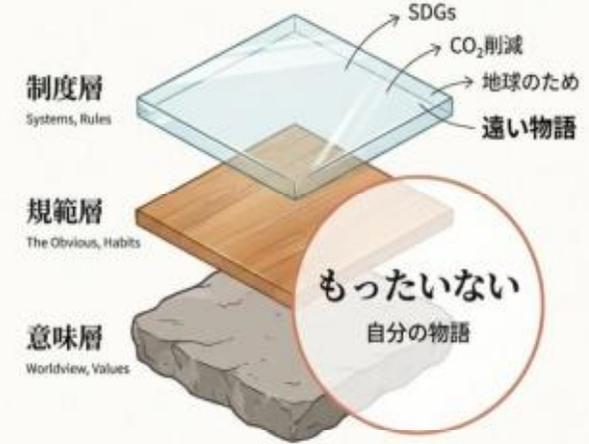
「もったいない」は、なぜ強いのか？ 行動の背景にある3つの層

✗ NOT about abstract ideals

CO₂削減や地球温暖化防止といった、遠い物語ではない。

✓ IS about personal life ethics

- 倫理（無駄は悪い）
- 美德（慎ましさ）
- 生活の知恵
- 経済合理性（節約）



Insight：行動の鍵は、グローバルな「環境」という抽象概念ではなく、パーソナルな「もったいない」という生活倫理にある。

<https://survey.gov-online.go.jp/202509/r07/r07-kankyokyoiku/gairyaku.pdf>

<https://survey.gov-online.go.jp/202509/r07/r07-kankyokyoiku/gairyaku.pdf>

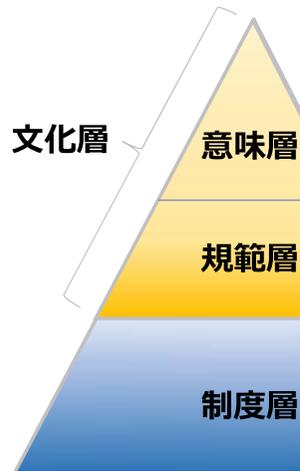
「CAMILモデル」™の3階層で環境共生・環境配慮行動について考える

(CAMIL = Culturally-Adjusted Meaning in Life)

環境配慮行動をCAMILモデルで表現すれば、以下の通り

(CAMIL = Culturally-Adjusted Meaning in Life)

【幸福の3層構造】



意味層 (Meaning Layer)

文化層の下部層で、**人生の意味づけや自己物語**、価値観に基づく幸福感の源泉を指す。人生の目的、選択の自由、自己責任、寛容さ、競争観等、個人が幸福をどう解釈するかに関わる。文化や歴史的経験が強く影響し、制度や規範の影響を個人の幸福感に転換する役割を果たす

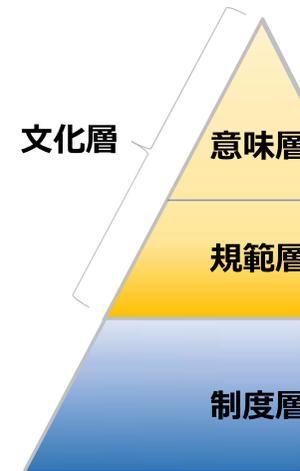
規範層 (Normative Layer)

文化層のもう一つの下部層で、**社会規範や価値観、制度の受け止め方**に関する要因を指す。政府への信頼、社会的支援、民主的統治の重要性、腐敗の認識等、幸福の判断や表現の仕方に影響する文化的フィルターとして機能。制度層と意味層の橋渡し役を担い、文化による大きな差異が現れる

制度層 (Institutional Layer)

幸福度に影響を与える客観的・制度的要因を指す。経済水準、ガバナンス、法の支配、インフラ、教育制度、環境政策等、社会の基盤を構成する要素を含む。国際比較で測定が容易で、政策効果や改善の度合いを評価しやすい領域

【幸福の3層構造】



意味層 (Meaning Layer)

ひとりひとり自分自身にとっての環境共生・環境配慮行動の意味・ストーリー。自分らしい生き方と環境共生・環境配慮行動がどう結びつくのかを決めるもの

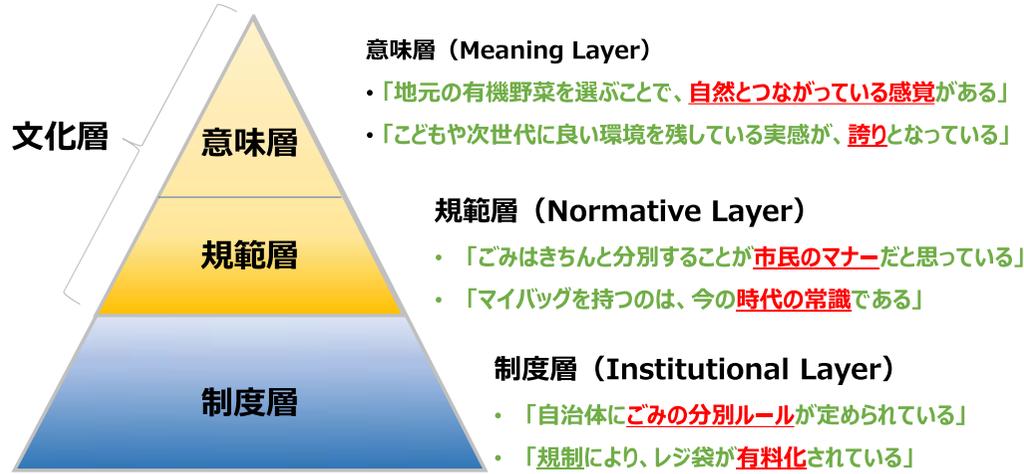
規範層 (Normative Layer)

環境共生・環境配慮行動を促進または抑制する社会の規範（社会常識やしきたり、仲間意識やならわし等の空気を支配するソフトなルール）

制度層 (Institutional Layer)

環境共生・環境配慮行動を支える社会の法規制や様々な制度、社会インフラ

【幸福の3層構造】

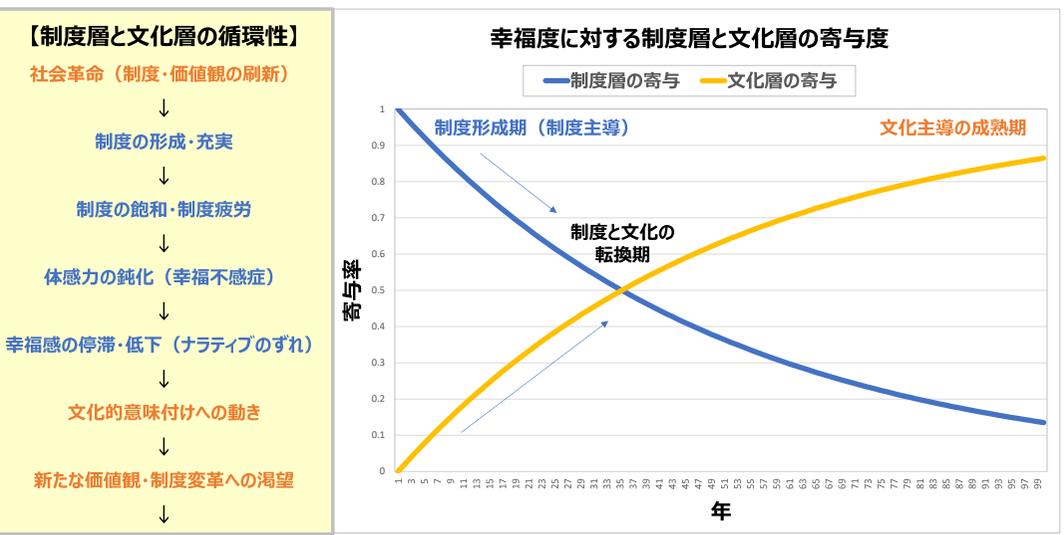


■ CAMIL3層（制度・規範・意味）間の相互作用には、「調和」「代替」「対立」の3パターンがあり、3層間の組み合わせは、27通り。これを一般化すると、大きく以下の分類となる



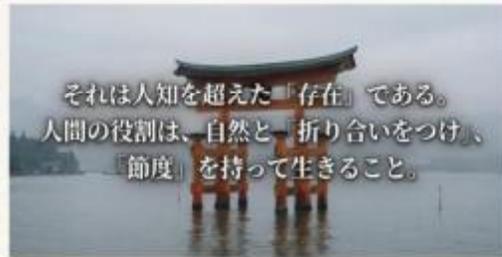
制度層と文化層の幸福度に対する寄与度の長期的波動のイメージ

歴史的事例： 制度主導 ⇒ 制度と文化の転換 ⇒ 文化主導 ⇒ …



制度主導期	制度と文化の転換期	文化主導期
<p>国家の制度整備が、幸福度向上の主要ドライバーとなる時期。インフラ整備・教育普及・社会保障制度の創設等、制度的基盤の拡充が生活の質を直接改善。</p> <p>【代表事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 戦後西欧（1945～1970年代前半） <ul style="list-style-type: none"> フランス、ドイツ、イタリアの戦後復興期（マールシャプラン、福祉国家形成）。高速道路、住宅供給、初等・中等教育の拡充 明治～昭和前期の日本（1870～1930年代） <ul style="list-style-type: none"> 近代憲法、議会制度、義務教育、鉄道網整備 シンガポール建国期（1965～1990年代） <ul style="list-style-type: none"> 公営住宅、教育制度の近代化、治安維持と経済自由化 	<p>制度的充実がある程度完成し、幸福度の伸びが鈍化。物質的豊かさから、価値観・ライフスタイル・文化的活動の比重が増す。世代間で幸福の意味が変化する。</p> <p>【代表事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1970～1990年代の北欧諸国 <ul style="list-style-type: none"> 制度は既に充実、ポストマテリアリズム（環境・ジェンダー平等・自己実現）へ移行 高度経済成長期の日本（1980～2000年初期） <ul style="list-style-type: none"> 制度的基盤は安定、余暇・文化活動・趣味が拡大 韓国（1990～2010年代） <ul style="list-style-type: none"> 教育やインフラは先進国水準に達し、K-カルチャーの発展・国際的文化発信へ 	<p>制度は飽和状態に達し、幸福度の差異は、文化・価値観・共同体の意味づけによって左右される。文化的物語や社会的つながりが幸福の主因。</p> <p>【代表事例】</p> <ol style="list-style-type: none"> 現代北欧（2000年代以降） <ul style="list-style-type: none"> 制度面の改善余地は限定的となり、幸福度は社会的信頼・文化的参加・コミュニティ関係に依存 ニュージーランド（2010年代以降） <ul style="list-style-type: none"> 先住民文化との融合、ウェルビーイング予算、環境重視のライフスタイル ブータン（1990年代以降） <ul style="list-style-type: none"> GNH（国民総幸福）政策、文化・精神性・伝統重視の幸福概念

「もったいない」の源泉： 意味層の最深部にある自然への「畏怖」



	近代的环境主義	畏怖の世界観
自然観	保護・最適化すべきシステム	人間を超えた主体
人間観	管理者・設計者	自然の一部
目標	制御と改善	謙虚さと調和

この世界観から見ると、「地球を救う」という発想そのものが傲慢に感じられることがある。

実践の知恵：「地の理（ことわり）」に従う

これは日本版の「テロワール」。

普遍的な正解を押し付けるのではなく、その土地固有の条件に、人の生業（なりわい）を適応させる知恵。

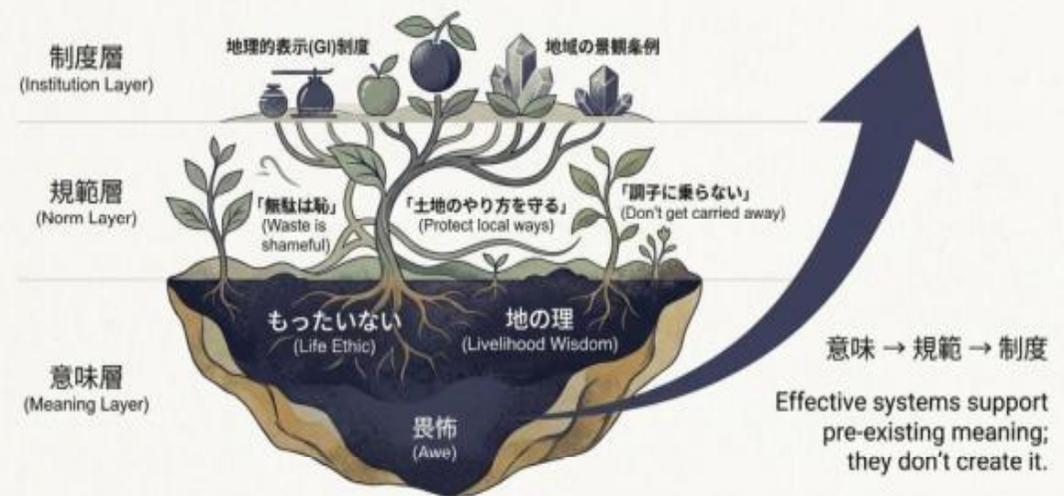
持続可能性は「目的」ではなく、賢い実践から生まれる自然な「結果」である。



畏怖・もったいない・地の理。三位一体の関係性



日本の環境意識の全体構造： 意味が規範を育み、制度がそれを支える



欧米モデルとの比較： 環境問題を、人々は「マナー」として捉えるか、「権利」として捉えるか

導き出される政策デザインへの2つのヒント

日本 (Japan)



「マナー」や「節約」の一環。ゴミの分別など、既存の社会システム内での規律正しい行動を重視。周囲への配慮が行動の動機となる。

欧州 (Europe)



「個人の義務」であり倫理。肉食を控える、飛行機を避けるなど、ライフスタイルの根本的な変更を自らの責任として捉える意識が強い。

米国 (USA)



「権利」を巡る闘争。意識の二極化が激しいが、環境保護を自らの権利を守るための政治的課題と捉え、訴訟や社会運動など爆発的なムーブメントに繋がる。

Hint 1: 「環境」を語るな、「暮らし」を語れ

Message X: 「環境のためにCO₂を削減しよう」
Result: 理念としては理解できるが、自分事にならない→動かない。

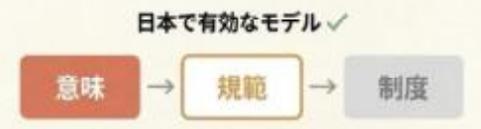


Message ✓: 「賢い暮らし」「気持ちの良い生活」「もったいないの高度化」
Result: 生活が整う、自分らしい→動く。

Hint 2: 「制度」からではなく、「意味」から始めよ



制度（補助金など）で行動を促し、意識変容を期待するが、意味が不在のため定着しない。



まず『生活の物語』としての意味を設計し、それが『当たり前』という規範となり、定着した行動を制度が後付けで支援する。

行動の違いは、より深い「自然観」そのものの違いに根差している

人間と自然の関係： 克服、保護、そして共存という3つの視点



西洋と日本。その文化の根底には、人間と自然の関係をどう捉えるかという、三つの典型的な思想が存在する。

アメリカ (America)



克服の対象

開拓の歴史から、自然は人間の知恵と力で利用し、コントロールすべき資源と捉える。

欧州 (Europe)



保護の対象

人間とは切り離された「聖域」として自然を定義し、人間の介入から守るべきものとする。

日本 (Japan)



共存の対象

人間も自然の一部であり、両者の境界は曖昧。一体となり、調和しながら生きることを理想とする。



アメリカ：克服から「極端な保護」へ

開拓思想の一方で、イエローストーン国立公園に象徴される「手つかずの原生自然（ワイルダネス）」を神聖視し、人間を完全に排除して守るという思想も生んだ。「開発か、100%の保護か」という二極化が特徴。



欧州：「管理された美」としての保護

欧州の自然保護は、荒野ではなく「人間の手入れが行き届いた美しい森や田園」を守る側面が強い。「人間が正しく管理する」ことが前提であり、近年は「自然の権利」を法的に認めるなど、倫理観が進化。

理想：一体となる庭園美学



借景や枯山水のように、自然を支配するのではなく、そのありのままの姿を模し、境界線を溶かして一体化しようとする文化。伝統的な里山は「適度な利用による共存」の成功例。

現実：曖昧さの功罪



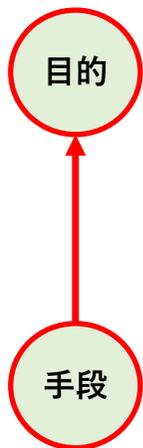
欧米のような「明確な線引き」を好まない文化は、共存を言い訳にした「中途半端な開発」や、管理放棄による里山の荒廃にも繋がる。

問題解決に向けて

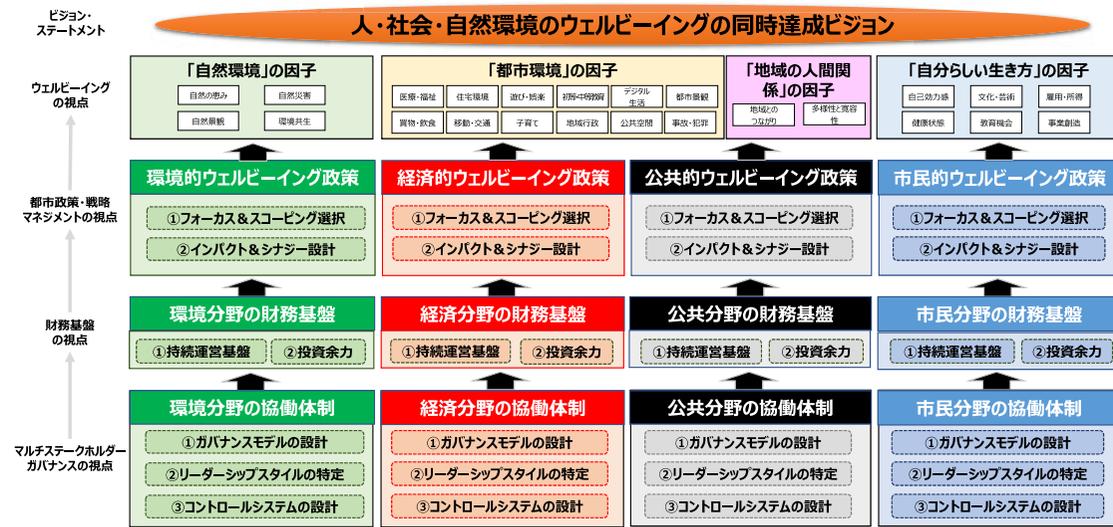
**ウェルビーイングに基づく
都市経営のアプローチ**

**統合的な都市経営
のフレームワーク**

都市経営の目的と手段の構図 都市計画やデジタル化は、手段であり、目的ではない。目的は、市民のウェルビーイングが実現されること

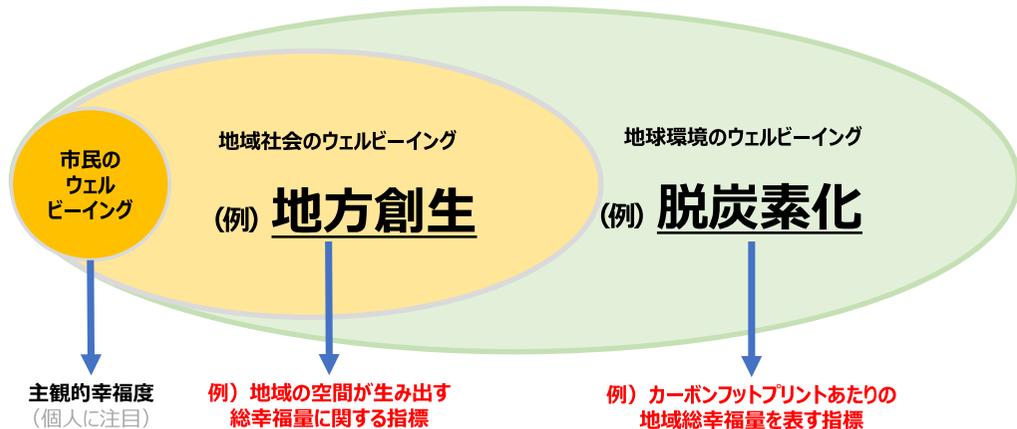


Well-Being City Architecture™は、都市経営の全体像。3つのウェルビーイングを目的とし、政策・事業、財務基盤、ガバナンス体制が手段を構成

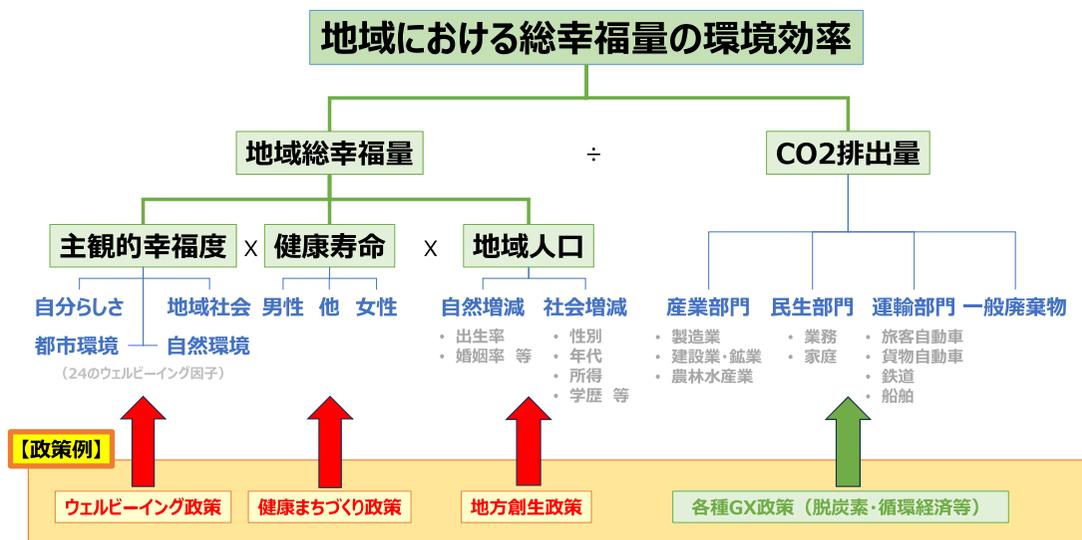


個人の指標に加えて、地域社会と地球環境を内包する総合指標を構築し、生態系全体のウェルビーイング度合い視野に入れた指標へと進化する必要がある

- 足元で、市民の幸福度は高いが、人口（特に若い女性）が加速度的に流出している状況をどう評価すべきか？
- 同様に足元で、市民の幸福度は高いが、自然環境に目を向けると気候温暖化が加速している状況をどう評価すべきか？
- 「市民のウェルビーイング⇔地域社会のウェルビーイング⇔地球環境のウェルビーイング」は、1つの「生態系」を形成している。

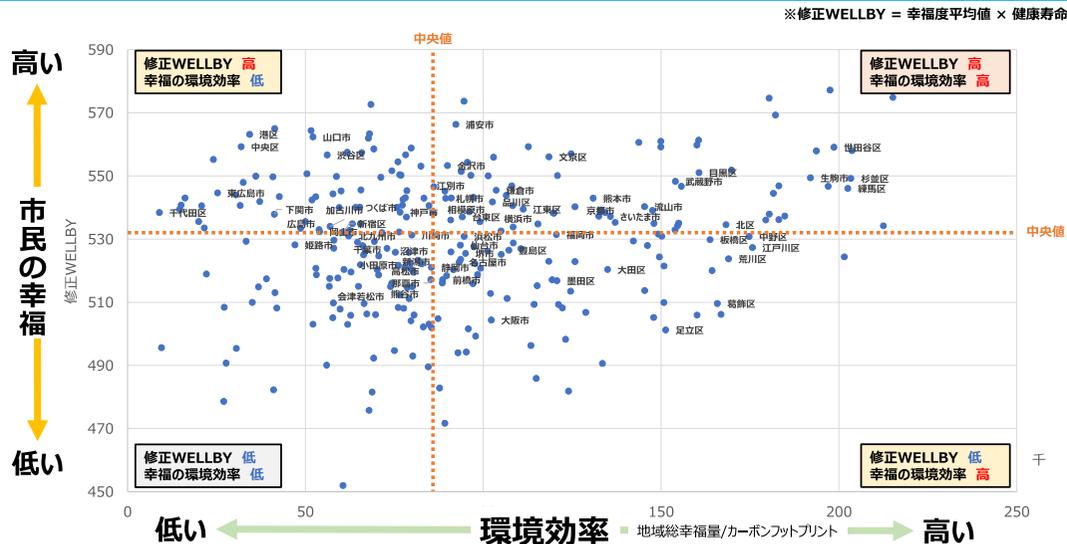


「地域総幸福量と環境共生の両立度合い」が両立する指標（プロトタイプ）



修正WELLBY（個人レベル）と地域総幸福量の環境効率（地域レベル）の両方の高い自治体はベッドタウン機能を持つ都市に多く、都市機能が集中する都市との補完性が示唆される

Next Steps： 国土交通省との連携

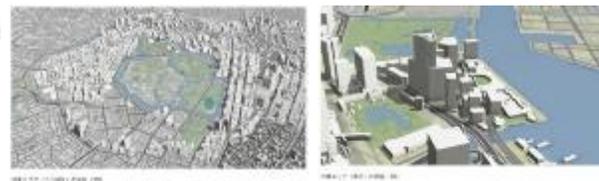


■ 環境共生を含む地球環境との関係に関するアンケートの設計と実施

■ AIとデジタルツインの活用による環境と人間のウェルビーイングのシミュレーション機能の開発

【樹木データを活用した温熱環境シミュレータの開発】

3D都市モデルを活用した樹木管理機能及び緑の効果の定量的評価を支援するツールを開発。官民双方に効率的な緑地管理と科学的根拠に基づいた緑化計画を推進し、都市緑地の量的・質的な確保に貢献する。



都市毎に「環境共生」の位置づけが異なる点に注目。富良野市や鎌倉市のように、市民の環境共生意識が高い都市もあれば、低い都市もある

自然が身近な都市が常に環境意識が高いとは限らない。逆に自然環の豊かゆえに、むしろ環境共生意識が低いこともある（自然＝当たり前の存在）

■ オレンジ色の折れ線グラフは、主観指標、ブルーの折れ線グラフは、客観指標を表す

■ オレンジ色の折れ線グラフは、主観指標、ブルーの折れ線グラフは、客観指標を表す

【富良野市】

【鎌倉市】

【武蔵野市】

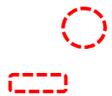
【沖縄市】



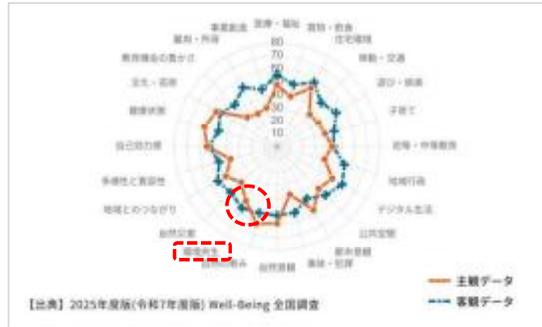
それゆえに、都市毎に自然環境との関係をよく理解し、環境共生意識を高める方法を見極める必要がある

■ オレンジ色の折れ線グラフは、主観指標、ブルーの折れ線グラフは、客観指標を表す

【郡上市】

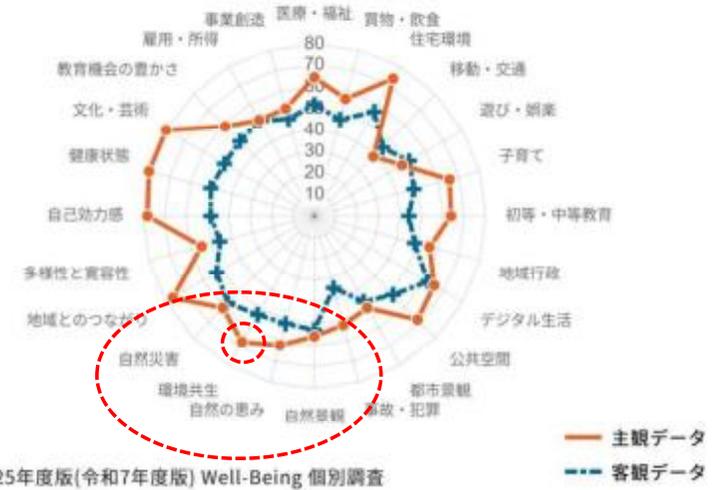


【会津若松市】

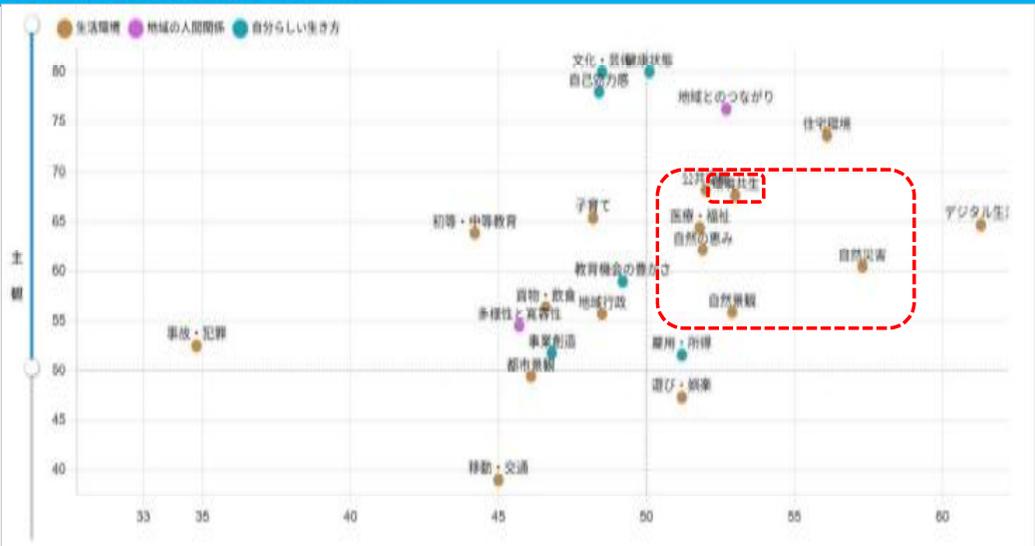


前橋市の例 環境共生のみならず、自然環境との全般的な関係にも注目。主観指標のみならず、客観指標にも目を向けることが大切

【前橋市】



前橋市の例 環境共生を含む自然環境の因子は、その都市ではどのような意味合いを持つと思いますか？



前橋市の例 【上段】幸福度との相関係数、【下段】生活満足度との相関係数。このワークショップでは相関係数が0.4以上あれば、相関性があると考え

【幸福度との相関係数】



【生活満足度との相関係数】



前橋市の例 年代差にも注目 日本では、幸福度や因子の年代格差が顕著。
前橋市の例では、若年層と高齢者層は意識が高いが、中年層はそうでもない

【10・20代】

- 幸福度7.3
- 生活満足度7.2



【30・40代】

- 幸福度7.1
- 生活満足度6.7



【50・60代】

- 幸福度6.9
- 生活満足度6.5



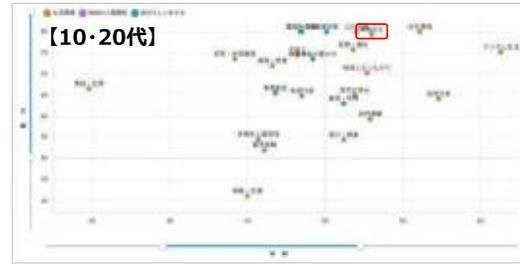
【70・80代】

- 幸福度7.5
- 生活満足度7.3

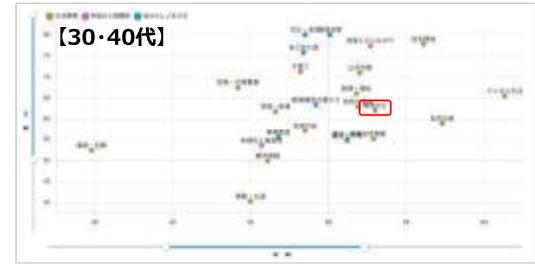


前橋市の例 年代差にも注目 日本では、幸福度や因子の年代格差が顕著。
前橋市の例では、若年層と高齢者層は意識が高いが、中年層はそうでもない

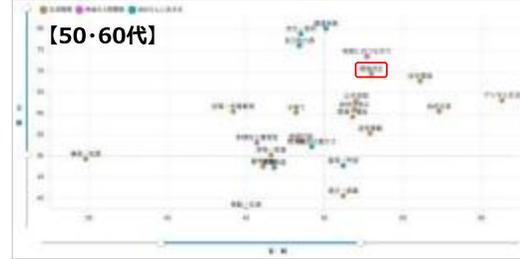
【10・20代】



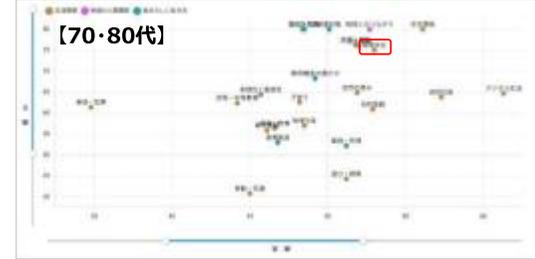
【30・40代】



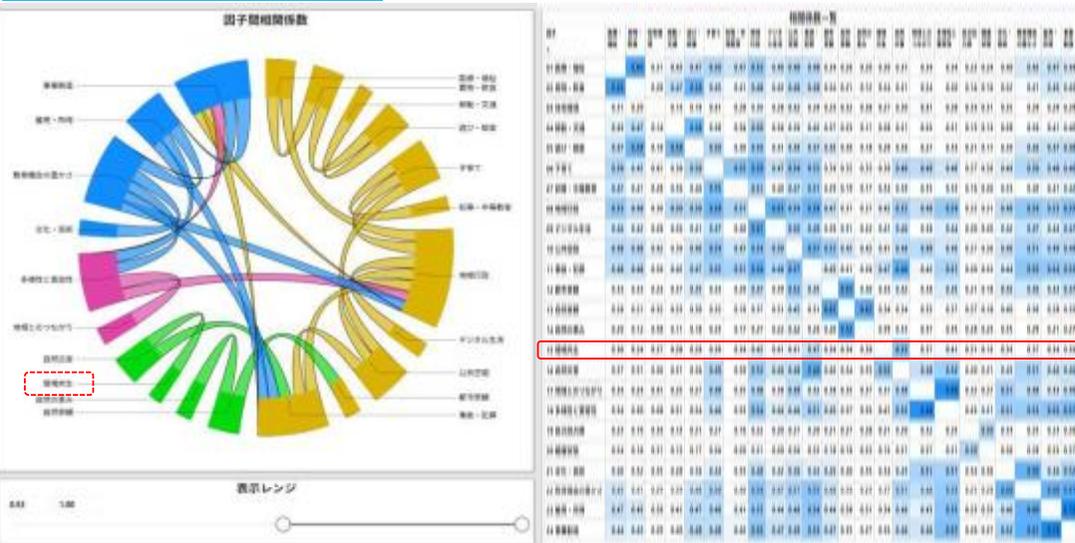
【50・60代】



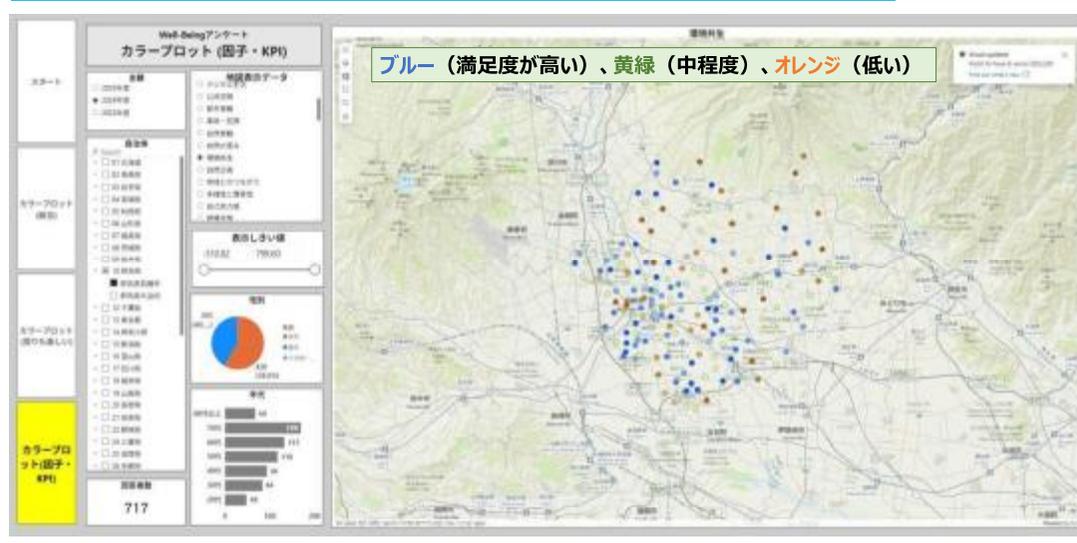
【70・80代】



前橋市の例 円形コードダイアグラムを使えば、環境共生の因子と他の因子との相関関係が把握できる



前橋市の例 カラープロットを使うと、地理空間上、どのエリアの住民の環境共生に対する満足度が高いかがわかる。性別・年代別表示が可能



視野を広げて 政策・戦略を考える

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【コペンハーゲン コペンヒル】



【バルセロナ スーパーブロック (第2フェーズ)】



【パリ エコカルティエ】



【サウジアラビア ザ・ライン】



【アマゾン本社スフィア】



【アップル本社】



61

62

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【Vertical Forest by S. Boeri】



【Smart Forest City by S. Boeri】



【Biophilic City, Tengah in Singapore】

LIVE GREEN

By 2030, Tengah is expected to be a fully green city with lush greenery and a high density of trees. The city is designed to be a model for sustainable urban development, with a focus on green infrastructure and a high density of trees.

EXPERIENCE THE PLANTATION CORRIDOR

The Plantation Corridor is a central green corridor that runs through the city, providing a natural environment for residents and visitors. It is designed to be a model for sustainable urban development, with a focus on green infrastructure and a high density of trees.

Smart Forest City

The Smart Forest City is a futuristic urban development that is designed to be a model for sustainable urban development, with a focus on green infrastructure and a high density of trees.

Smart Forest City

The Smart Forest City is a futuristic urban development that is designed to be a model for sustainable urban development, with a focus on green infrastructure and a high density of trees.

<https://www.hdb.gov.sg/cs/infoweb/homepage>

<https://www.stefanoberichitetti.net/en>

63

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【New European Bauhaus】



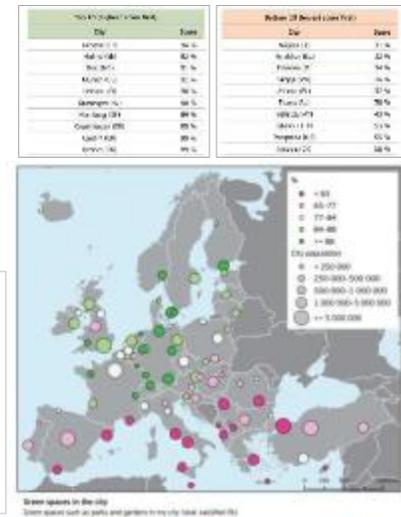
【European Green Capital & Leaf】



【Climate Neutral & Smart Cities】



【Quality of Life in European Cities】



64

IDEATION

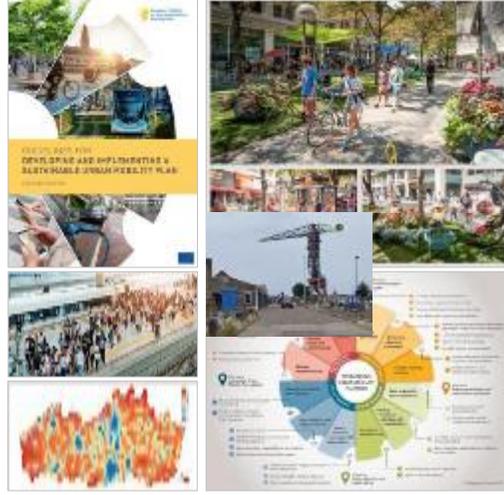
国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【サーキュラーエコノミー（オランダ）】



<https://ideasforgood.jp/glossary/circular-economy/>

【EU SUMP: Sustainable Urban Mobility Program】



<https://sumps-up.eu/publications-and-reports/>

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【Dr. Joel Fredericks, University of Sydney. AI-Generated Avatar of Koala, representing nature】



<https://blogs.tuni.fi/urbanresearch/event/community-engagement-for-urban-resilience-through-ai-and-other-emerging-technologies/>

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【グリーンインフラ官民連携プラットフォーム】



<https://gi-platform/>

【TSUNAG - 優良緑地確保計画認定制度】



<https://tsunag-mlit.com/>

IDEATION

国内外の様々な事例を参考にアイデアを積み上げる

【SDGs未来都市モデル事業】



https://www.chisou.go.jp/Riki/kanky/miraitoshi_torikumigaiyou.html

【地域循環共生圏】



<https://chikijunkan.env.go.jp/>

【デコ活】



<https://ondankataisaku.env.go.jp/decocraft/>

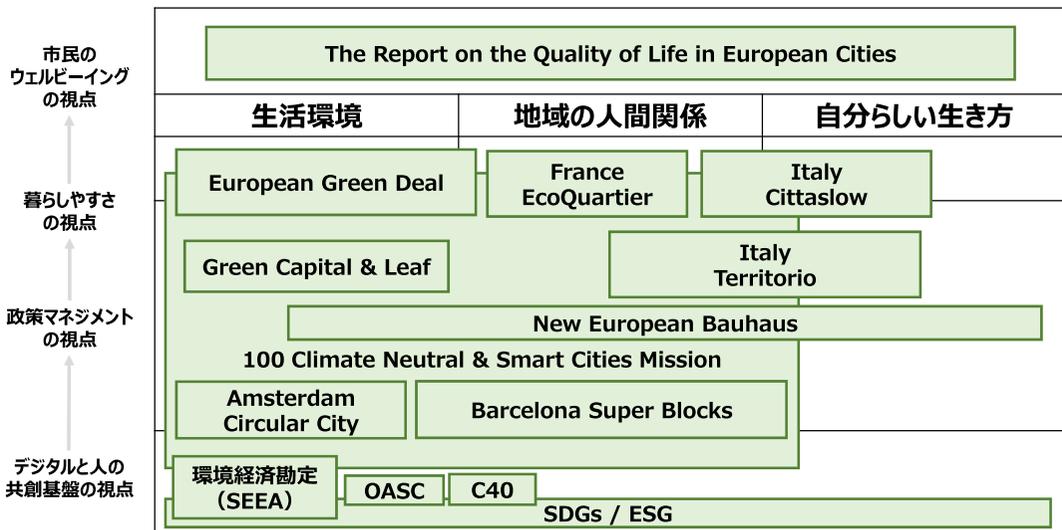
【脱炭素先行地域】



<https://policies.env.go.jp/policy/roadmap/>

環境共生都市アーキテクチャ（欧州における政策事例をマッピング）

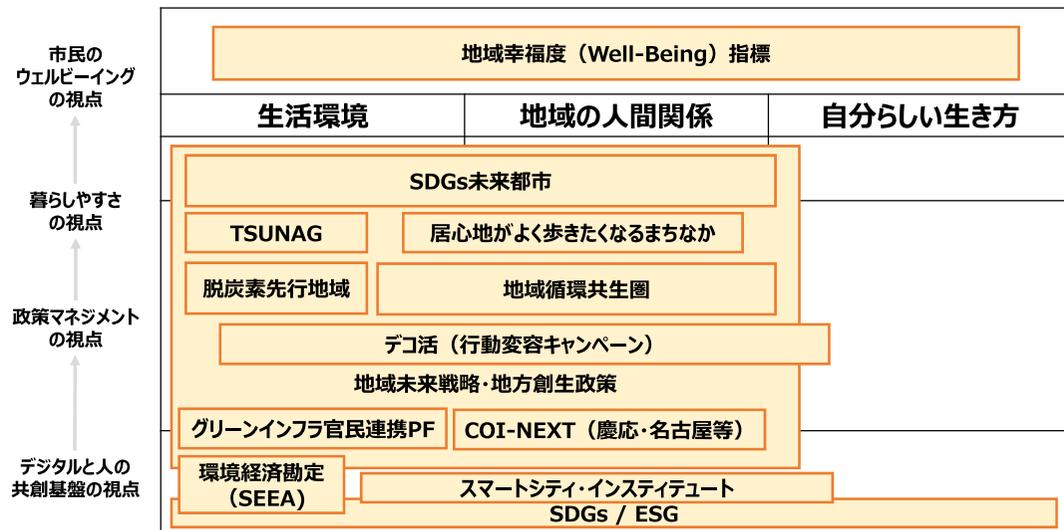
（政策は、複数の領域にまたがることもあるため、各政策の主たる特徴に基づき配置）



69

環境共生都市アーキテクチャ（日本における政策事例をマッピング）

（政策は、複数の領域にまたがることもあるため、各政策の主たる特徴に基づき配置）



70

環境共生都市アーキテクチャ（日本における政策事例をマッピング）

（政策は、複数の領域にまたがることもあるため、各政策の主たる特徴に基づき配置）



71

ウェルビーイングに基づく都市像を決める

72

ウェルビーイングの個別因子から始まり、その構造化を経て、12の都市モデルに。都市モデルをアーキタイプとして参考にし、実際のまちづくりへと駒を進める

【ウェルビーイングの24因子】

【12の因子間構造モデル】

【12の都市モデル】

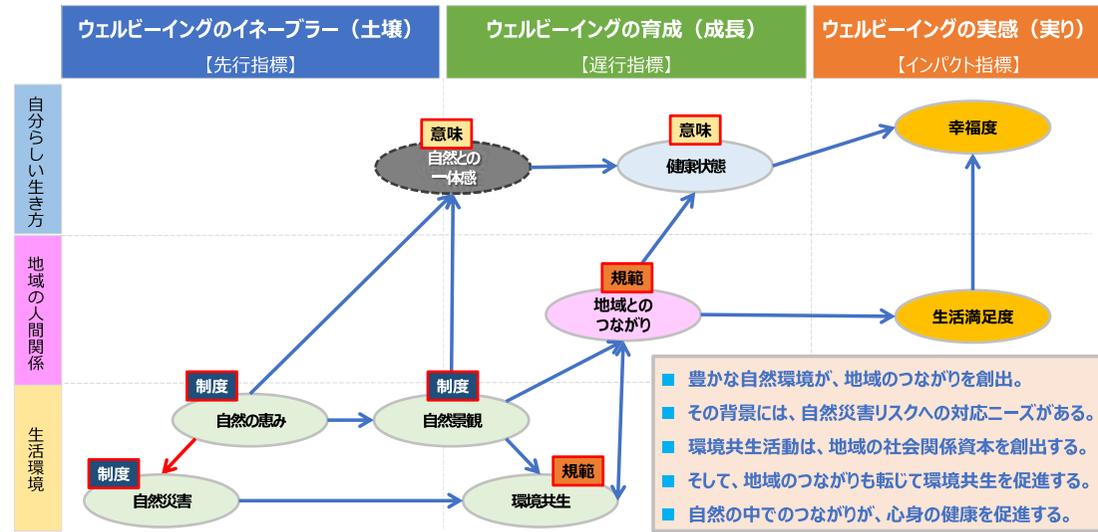


12の因子間構造モデルは、12の都市モデルの中核部分を成すもの

レファレンスモジュール⑤ 「自然資本と社会関係資本の良好な循環」

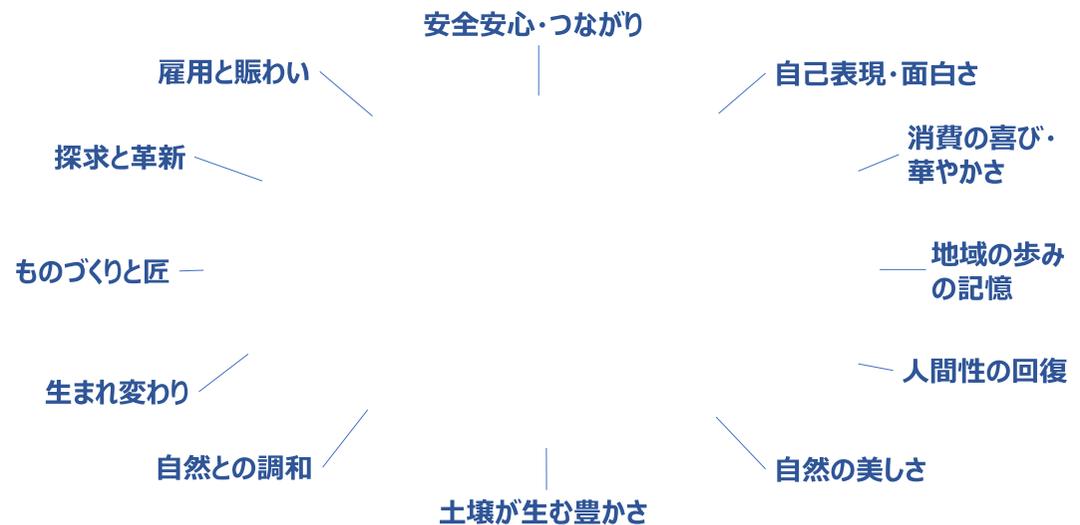
(Circular & Regenerative Model)

記入例



日本の都市は、日本人に共通の幸福観を公約数として、その上にそれぞれの個性を乗せたような構造になっている。その個性ごとに都市の魅力が異なっている

将来（例えば20年後）、どのような価値観を具体化するまちにすべきだろうか？

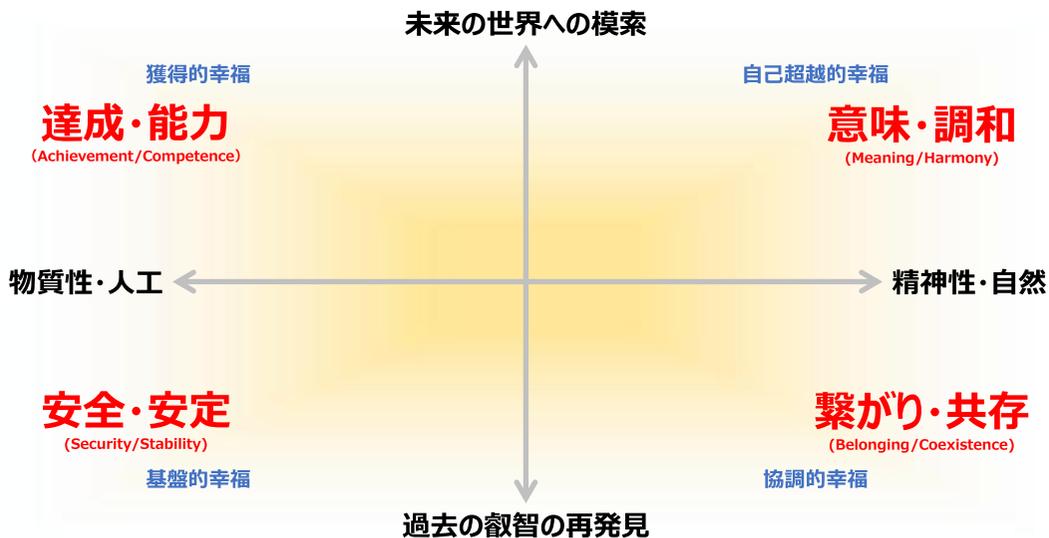


まちづくりを大きく捉えると、「時間軸」(過去⇔未来) x 「価値志向軸」(物質性⇔精神性)で分類することができる



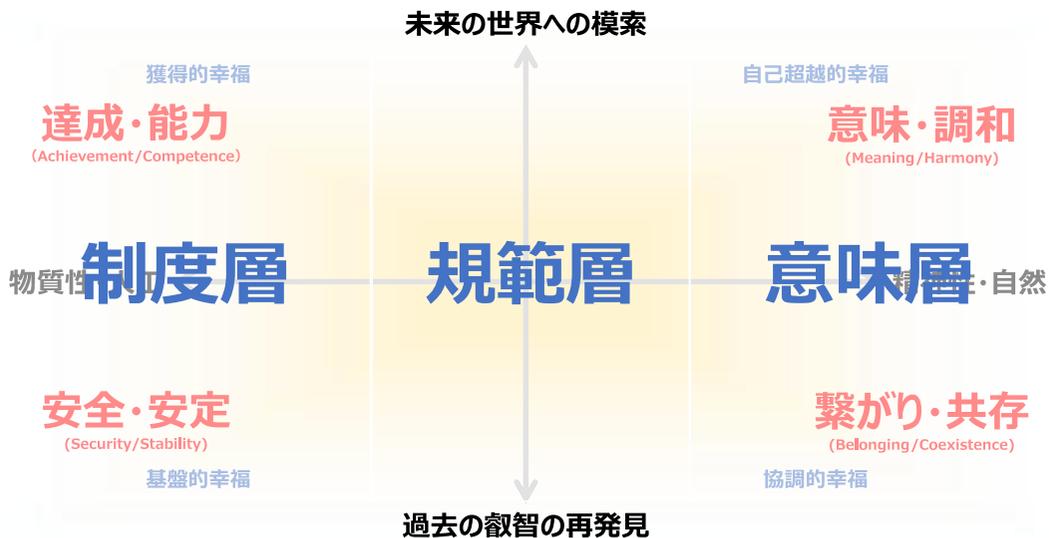
77

まちづくりの根幹にある思想の違いが、この枠組みによって浮き彫りになる。その差異を踏まえた施策デザインこそが、都市の未来を左右する鍵となる



78

まちづくりの根幹にある思想の違いが、この枠組みによって浮き彫りになる。その差異を踏まえた施策デザインこそが、都市の未来を左右する鍵となる



79

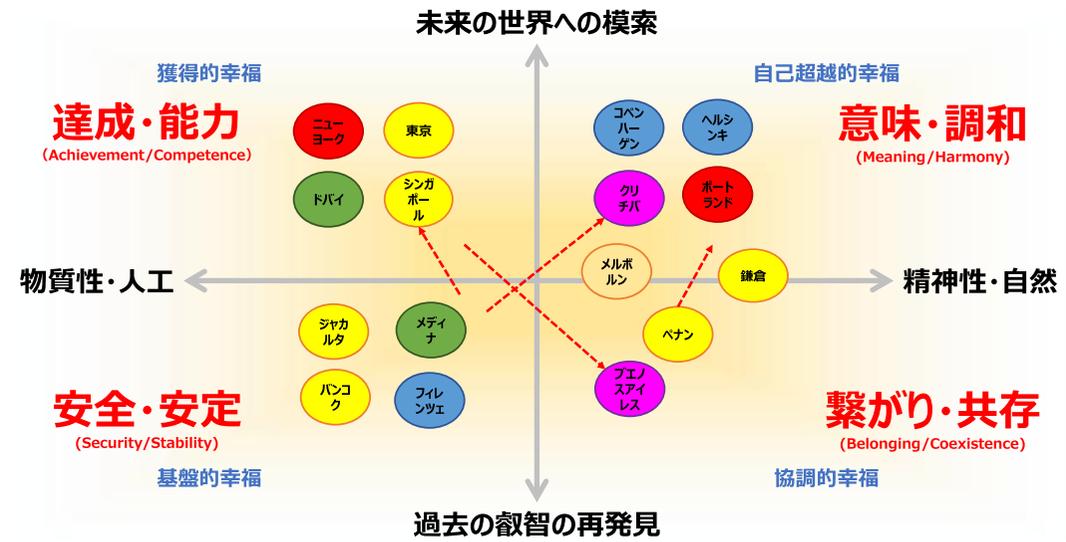
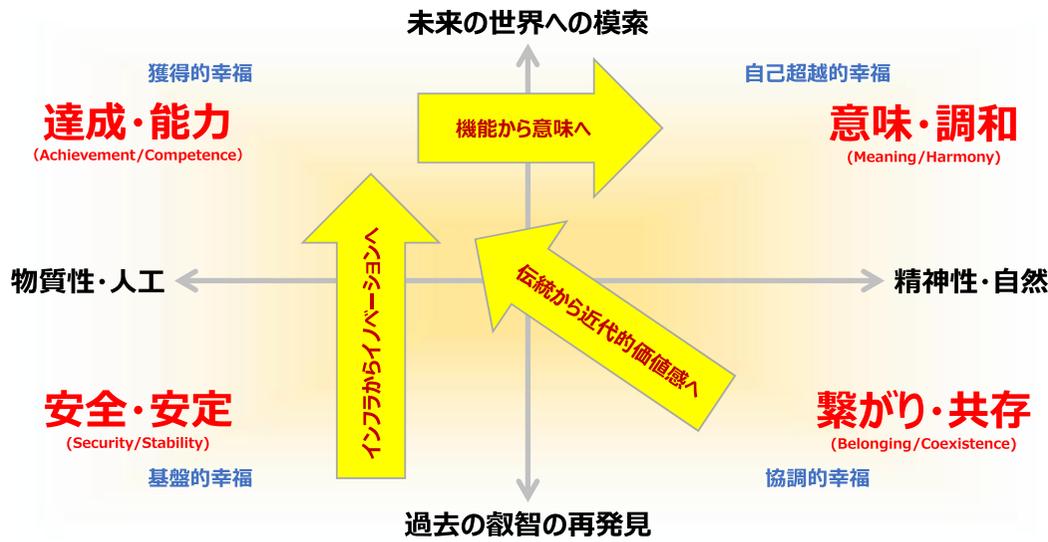
今日の日本は、制度層の充実の段階を経て、意味 (= Well-Being・幸福の意味) を改めて捉えなおすべき段階を迎えている



80

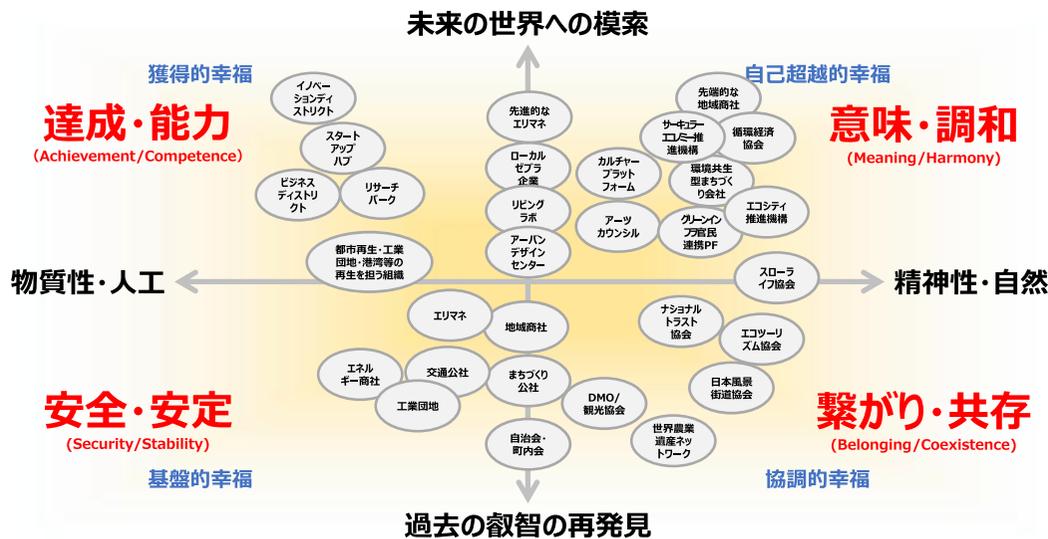
歴史的な時代の流れは、下から上へ、左から右へ。先進国は、「達成・能力」を担うグローバル大都市と、「意味・調和」を目指す中都市とに分岐している様相

世界の都市を俯瞰すると、「安全・安定」もしくは「繋がり・共存」から、「達成・能力」(大都市モデル)や「意味・調和」(中都市モデル)へ移行する傾向



めざすべき都市像が見定められたら、続いてそれを担うアクターの洗い出しや連携可能性 (Alliance)、または整合性 (Alignment) の在り方を考える

WBC Canvas : ○○町「梅の世界ブランド化」施策



記入例

<p>Purpose (目的) 梅を「日本のローカル食品」から「グローバル・ウェルネスブランド」へ進化させ、世界市場での健康志向・発酵文化・新食体験の象徴として確立。梅農家の後継ぎを育て、梅を中心とする固有の生態系を維持・伝承する。</p>		
<p>Profit (経済効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ スポーツ市場：世界のマラソンの他、オリンピック競技公式ドリンク化：3兆円/年 ■ NY・パリ高級レストランでの梅酒販売：500億円/年 ■ 梅成分入りサプリ海外販売：5億円/年 	<p>Place (場所)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 和歌山県○○町が生産拠点（戦略チームを組成） ■ （熊野古道等の抱き合わせによる広域イメージ） 	<p>Prosperity (社会環境効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 海外における高齢者の疲労回復・長寿効果による生活の質向上 ■ 新たな食文化・ブランドによる観光誘致 ■ 梅林景観・農業文化遺産の維持・継承 ■ SROI = 2.25
<p>Proposition (提供価値)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 海外：新ジャパニーズ・スーパーフード（輸出商品開発とブランド化が必要） ■ 若年層：輸出品・6次産業化を含め新たなビジネス機会の創出（高齢化する農家の後継者としても活躍） 		<p>Partners (協働者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ JA梅生産組合 ■ グローバル食品メーカー ■ 農水省・JETRO ■ 海外日本食レストランネットワーク ■ 国際的デザイン会社（ブランド戦略）
<p>Peculiarity (独自性) 世界農業遺産の梅システムを国際認証として活用し、農業遺産 x グローバル市場の実現可能性。梅 = 酸味・発酵を武器にした「日本発の新たな味覚カテゴリ」（Umamiに次ぐ）の確立可能性。</p>		

ウェルビーイングの個別因子から始まり、その構造化を経て、12の都市モデルに。都市モデルをアーキタイプとして参考に、実際のまちづくりへと駒を進める

多様な都市コンセプトは、ウェルビーイングに基づく基本モデルの特徴を組み合わせた「ブレンド型」として整理できる

【12の都市モデル】

<p>■ 市民社会重視の都市モデル</p> <p>① 子育て・安全安心のまち … ヘルシンキ、オスロ、流山</p> <p>② 文化創造都市 … ベルリン、モントリオール、金沢</p> <p>③ 文化と商品・サービスの消費のまち … ソウル、ラスベガス</p> <p>④ 歴史・文化遺産のまち … ローマ、エディンバラ、京都</p>
<p>■ 自然環境重視の都市モデル</p> <p>⑤ 癒しと回復のまち … ウェリントン、チェンマイ、箱根、草津</p> <p>⑥ 自然景観のまち … バンクーバー、レイキャビク、白馬</p> <p>⑦ 風土と特産品のまち … ナバ、ポローニヤ、高知、鹿児島</p> <p>⑧ 循環経済のまち … アムステルダム、コペンハーゲン、鎌倉</p>
<p>■ 経済産業重視の都市モデル</p> <p>⑨ 再投資・再生のまち … ボストン、マンチェスター、北九州</p> <p>⑩ 職人・町工場のまち … シェフィールド、京浜工業地帯</p> <p>⑪ 科学技術学園都市 … ケンブリッジ、ボストン、つくば</p> <p>⑫ 国際ビジネス都市 … ニューヨーク、ロンドン、シンガポール</p>

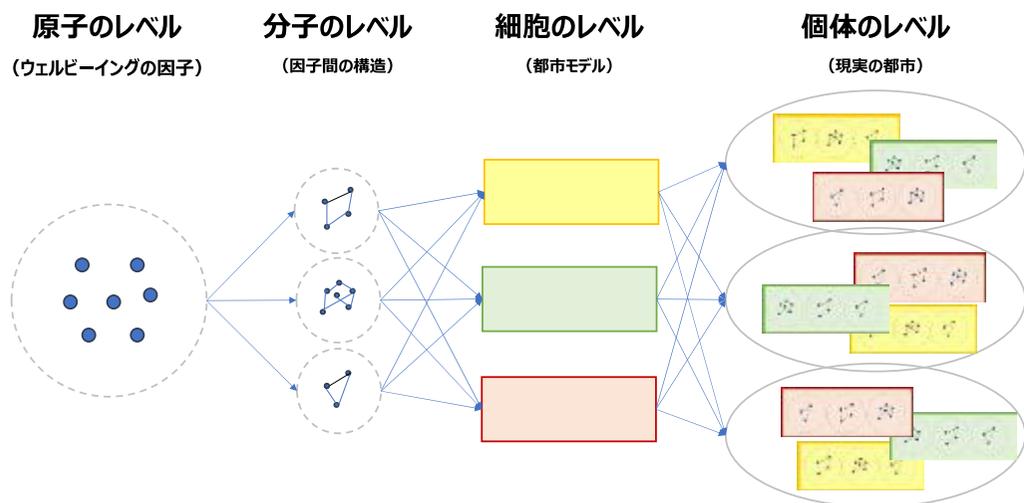
12の因子間構造モデルは、12の都市モデルの中核部分を成すもの

<p>■ 市民社会重視の都市モデル</p> <p>① 子育て・安全安心のまち … ヘルシンキ、オスロ、流山</p> <p>② 文化創造都市 … ベルリン、モントリオール、金沢</p> <p>③ 文化と商品・サービスの消費のまち … ソウル、ラスベガス</p> <p>④ 歴史・文化遺産のまち … ローマ、エディンバラ、京都</p>
<p>■ 自然環境重視の都市モデル</p> <p>⑤ 癒しと回復のまち … ウェリントン、チェンマイ、箱根、草津</p> <p>⑥ 自然景観のまち … バンクーバー、レイキャビク、白馬</p> <p>⑦ 風土と特産品のまち … ナバ、ポローニヤ、高知、鹿児島</p> <p>⑧ 循環経済のまち … アムステルダム、コペンハーゲン、鎌倉</p>
<p>■ 経済産業重視の都市モデル</p> <p>⑨ 再投資・再生のまち … ボストン、マンチェスター、北九州</p> <p>⑩ 職人・町工場のまち … シェフィールド、京浜工業地帯</p> <p>⑪ 科学技術学園都市 … ケンブリッジ、ボストン、つくば</p> <p>⑫ 国際ビジネス都市 … ニューヨーク、ロンドン、シンガポール</p>

【都市コンセプト】

- ▶ コンパクトシティ
- ▶ ウォークアブルシティ
- ▶ 文化創造都市
- ▶ クリエイティブシティ
- ▶ ガーデンシティ (田園都市)
- ▶ スローシティ
- ▶ テリトリーオ
- ▶ サークュラーシティ
- ▶ 地域循環共生圏
- ▶ 脱炭素先行地域・ゼロカーボンシティ
- ▶ SDGs未来都市
- ▶ スマートシティ
- ▶ スタートアップエコシステム拠点都市
- ▶ イノベーションディストリクト
- ▶ グローバルシティ

生物のアナロジー ウェルビーイングの因子を原子に例えると、わかりやすいかもしれない…



スマートシティの経験

過去の実践知に学ぶ

- ① 地域空間的な境界（盆地、扇状地、港町・・・）がはっきりしていること ⇒ 運命共同体意識や市民参加意識の肝
- ② 「旦那」、つまり地域にコミットする大人の部活動ができる人がいること ⇒ 経済合理性だけではスマートシティは創れない
- ③ 行政主導ではないこと ⇒ スマートシティはセーフティネットだけではなく、イノベーションが楽しい。それが自己効力感！ ②③の基盤となるような地元企業の存在は大切
- ④ 課題から入らないこと ⇒ 課題から入ると平均的なまちに。そうではなくウェルビーイング因子を活かした個性・魅力重視がキー
- ⑤ 近接性が大事 ⇒ 産官学民のシナジー発揮によるイノベーション型スマートシティの実現には、インクルーシブスクエアのような狭い領域に全てが揃っていることがポイント

1. ディープテック創出能力

- 社会に変革をもたらす可能性のあるイノベーション創出機能の獲得

2. スタートアップ／アントレプレナーの集積

- ディープテックの社会実装を担う人や組織の確保

3. ウェルビーイングな生活をおくれる都市環境

- 研究者、起業家、クリエイター、投資家等が自分らしく生きられる生活環境の提供

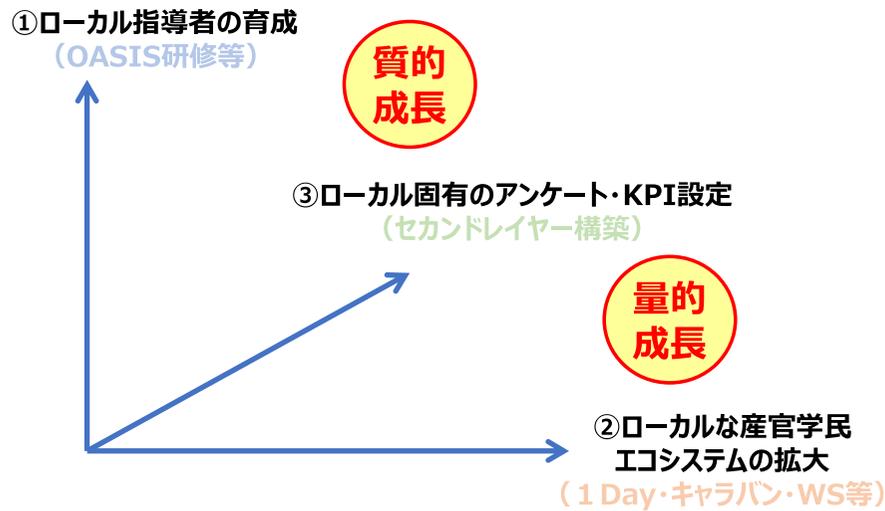
【イノベーション志向型（変革の経済）】 【地域文化創造型（共感の経済）】

イノベーション
ディストリクト



先進的な
地域商社

フェーズ	典型的な組織	具体的な事例	収益モデル	成果
構想	まちづくり協議会 UDC	柏市 UDCK 千代田区 エコツツエリア	非収益 (補助金・会費)	社会実験 合意形成
実装	地域公社 エリマネ団体	福岡市 FDC 横浜市 みなとみらい21 千代田区 エリマネ協議会	収益～経費回収 (管理受託・協賛)	公共空間運営 市民協働
収益	地域商社 DMC 公社型企业 地域エネルギー会社	雲南市 吉田ふるさと村 飛騨市 ヒダカラ商店 境町 まちづくり公社 前橋市 めぐくグラウンド	収益～投資 (販売・再投資)	経済循環 雇用創出
拡張	ファンド DAO 地域投資組合 大学連携センター	前橋市 太陽の会ファンド 三豊市 商店街DAO	投資～再投資 (域内から域外へ)	自治的 循環的發展



- ① チェンジマネジメントの中核は人材育成 ⇒ 長期的には実践者の数がものを言う。人事異動を前提に、研修サイクルを3年間は続ける。単発のワークショップや勉強会は、場合によっては逆効果（楽しい経験だが、実際には行動に移さず）。
- ② 研修は必ず組織のトップから始める ⇒ 首長・幹部⇒部局長⇒課長⇒係長以下。それが実践者の心理的安全確保には必要。成果を首長に報告するループを設定。
- ③ コンサル任せのブラックボックスにはしない ⇒ 時間がかかっても、自治体職員や社員が自らの手で実践可能な状況をつくる
- ④ 同じメッセージを7回、7つのメディアを通じて伝える ⇒ 首長の言葉 x 研修・WS x 広報 x 新聞 x SNS……。
- ⑤ メディアを通じて組織の外から常識を変える ⇒ 組織は、内部の情報より外部の情報に影響を受けやすい。アウトサイドインの情報の流れを創出する。

93

94

- ⑥ 組織横断的な実践知の共有の「場」を用意する ⇒ Slackやオフサイトを通じベストプラクティスや悩みの共有のためのハードルを下げる。共助（パクリ合い）を奨励する。
- ⑦ 「中間」ゴールを明示化する ⇒ 自治体の場合は、総合計画・予算化等、公式な制度に反映することが一里塚。企業の場合は、経営会議での承認（予算が付く）。
- ⑧ 「組織の業績評価」と「市民のウェルビーイング」を混同しない ⇒ 目的は、常に市民起点のウェルビーイングの向上。組織の活動は手段。目的と手段の主従逆転には厳しく臨む。
- ⑨ 達成感を感じられる仕組みを用意する ⇒ 修了証、アワード、全国レベルのステージでの成果発表、新聞報道等。
- ⑩ 背中を押すタイミングを見計らう ⇒ 学びの次は実践。推進者側の役割を与え、「私は学ぶ側」というマインドセットを打ち破る。



OASIS研修、1Day研修、講演

コレクティブ・インパクトゲーム体験

「コレクティブインパクトゲーム」は、地域幸福度（Well-Being）指標の活用を促すために開発されたワークショップ。金沢工業大学がSCI-Japan、東京海上日動火災保険、LODUと共同で製品化。

95

96

【OASIS研修最終日】 首長あてプレゼンテーションと修了認定証

- OASIS研修の最終日は、首長あてプレゼンテーション。
- 各チームから研修期間中に実施した各種分析結果と政策提言を15分程度で発表。
- OASIS修了者には、「認定証」を授与し、ウェルビーイング指標活用による政策デザイン習得の証としている。



浜松市での最終発表の様子（出典：浜松市ホームページ）

<認定証>



SCI-Japan主催 City-Region MAP プログラム

地域経営人材の育成と受講者相互のコミュニティ形成を目的として、オンライン研修・ワークショップで構成した実践者向けプログラム（後援：内閣府、総務省、国土交通省）

◆スマートシティ戦略・リーダーシップ
「地域幸福度（ウェルビーイング）指標」（全3回）
SCI-Japan代表理事 南雲 岳彦

◆プレミアムコンテンツ
「Well-Being論」
慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授 前野 隆司氏

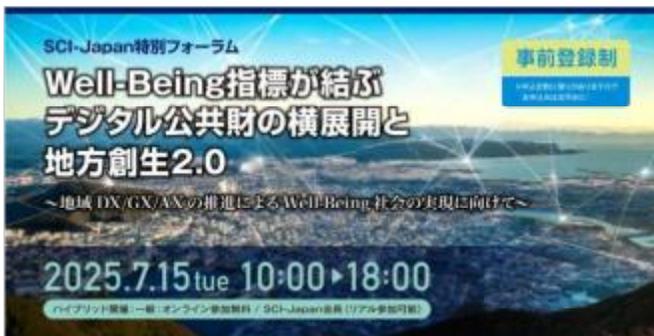
「日本における場のWell-Being」
京都大学人と社会の未来研究院 教授 内田 由紀子氏

「人口減少・成熟社会のデザイン ～ AIシミュレーションと都市・地域」
京都大学人と社会の未来研究院 教授 広井 良典氏



2025年7月15日開催／SCI-Japan特別フォーラム

『Well-Being指標が結ぶデジタル公共財の横展開と地方創生2.0 ～地域DX/GX/AXの推進によるWell-Being 社会の実現に向けて』



SCI-Japanが独自開発した「地域幸福度（Well-Being）指標」は、前政権の「デジタル田園都市国家構想」のもと、日本政府とともに自治体への普及推進を進めた結果、現在150を超える自治体にご活用いただいております。

SCI-Japanでは、日本政府が進める「地方創生2.0」、「デジタル公共財」の普及にも対応するべく、これまでの「地域幸福度指標」を深化させ、地域の「住民」だけでなく地域DX/GXによる「地域社会・地球環境」も含めたWell-Beingの実現に向けて、地域幸福度指標の次のフェーズに向けた開発をスタートします。また、世界の街づくりの新潮流である「イノベーションディストリクト」を推進する研究機関との連携など国際戦略の取り組みをスタートしております。こうした背景のもと、日本経済新聞社との共催により7月15日にSCI-Japan特別フォーラムを開催し、地域幸福度向上を推進する先進自治体の取り組みや地方創生の成功事例の取り組みなどを紹介します。

<https://seminar.nikkeico.jp/e/959368>



日本経済新聞朝刊（2025年6月30日掲載）

2025年7月15日開催／SCI-Japan特別フォーラム

『Well-Being指標が結ぶデジタル公共財の横展開と地方創生2.0 ～地域DX/GX/AXの推進によるWell-Being 社会の実現に向けて』



日本経済新聞朝刊（2025年6月25日掲載）

活用促進・連携・情宣

機関誌、市の広報サイト、Web等各種メディアを通じた情報発信、活動紹介



横浜市ホームページ「市会の広報」
(2024年12月6日掲載)



中日新聞Web、gooニュース（富山県黒部市）
(2025年1月16日掲載)

桜井高等学校ホームページ
(2025年1月17日掲載)



前橋市広報誌「広報まえばし」
(2025年2月号 (NO.1719) 掲載)



関西財界セミナー 第6分科会(都市経営) 登壇
(神戸新聞NEXT 2025年2月6日掲載)

日本ウェルビーイング推進協会
(和歌山県南都町・福井県高浜町)
(2025年2月開催)



CEATEC日本
(ブース出展、2024年10月15~18日)



YOKOHAMA International Open Data
Day in Yokohama 登壇 (2025年3月8日)

活用促進・連携・情宣

国際機関を含む、産官学民連携による地域幸福度 (Well-Being) 指標の応用的活用



COI-NEXT循環創造学シンポジウム
(慶応義塾大学・鎌倉市)



COI-NEXT産官学連携国際シンポジウム
(横浜市立大学・横浜市)



内閣府SIPシンポジウム (産総研・東京大学等)



世界銀行 (SCIJ)・千葉市・横浜市・尾道市



日立東大ラボ 産学協創フォーラム



第13回アジア・スマートシティ会議 (横浜市)

【岩手県】 県民のウェルビーイングに関する年次報告書を発行し、市民宛のウェルビーイングに関する啓発と政策の透明性の向上に努めている



<https://www.pref.iwate.jp/tense/seisaku/suishin/1018014/1081913.html>



学术论文・寄稿等 学界でもウェルビーイング指標のデータ活用が進む



日本システムデザイン学会, Vol. 5, No.2, Feb 2025



MDPI Urban Science, 2025, 9, 155



東京大学大学院新領域創成科学研究科

学術論文・寄稿等 徐々に論文数が増加しており、把握することが難しい段階

自治体のWell-Being指標導入・展開について、民間企業等が連携支援



とよなか都市創造 Vol.3 2025.3



新都市 Vol.7 No.4, 2025



月刊J-LIS, June 2025

各自治体のWell-Being指標導入や活用の段階に応じて、各社・団体が連携してサポートし、Well-Being指標の自治体導入・展開を加速（連携会議を予定）。他の参加希望の企業を募集中。



各社・団体の支援内容

都道府県別Well-Being指標活用団体（2025.09時点）



データ収集・分析、調査・アンケート設計、データ活用コンサルティング、セミナー等の開催を実施しています。
連絡先: ir-wellbeing@intage.com
支援プロジェクト: 地域幸福度(Well-Being)指標リサーチサービス



リビングラボなどの共創の仕組みを活用し、持続可能な地域創生を実現するコンサルティング事業を展開します。デジタル(技術・サービス)とアナログ(地域のつながり・文化)を有機的に連動させ、社会的価値と経済的価値の両立をめざしたプロジェクトの立ち上げを特徴としています。
連絡先: codips-smartcity@west.ntt.co.jp



GIS(地理情報システム)を活用した地理的な視点に基づくWell-Being指標の可視化/モニタリングや地域分析によって、地域の課題解決を支援します。
連絡先: gisinfo@esri.com
主要プロジェクト: ArcGIS



地理空間情報を活用したデジタルサービスを開発しています。デジタルマップとジオテクノロジーズ社(グループ会社)が運営するポータルと連携したアンケートを活用した支援を行います。
連絡先: hello@geolonia.com
支援プロジェクト: デジタルマップ、ポータルを利用したアンケート調査

SCI-JapanはWell-Being指標を開発し、国や自治体と連携して人間中心の街づくりを目指しています。客観的指標とアンケート調査による主観的指標を組み合わせて、市民の幸福度を自治体単位で可視化し、現在150を超える自治体が活用中です。自治体の総合計画等の策定にWell-Being指標を活用する事例も増えています(前橋市、東広島市、浜松市、鎌倉市、長野県下伊那郡松川町等)。昨年秋からは「Well-Being指標ファシリテーター」の育成も始まり、現在103人がワークショップなどを支援しています。6か月かけてWell-Being指標の活用を学ぶOASIS研修も行っており、研修の最終回は首長への政策提言を行います。既に約40の自治体で研修を実施しています。

連絡先: digital-society@murc.jp
支援プロジェクト: 地域幸福度(Well-Being)指標、OASIS研修、City-Region MAPプログラム、SCI-Japan主催特別フォーラム開催、ノルセロナ視察研修・ジャパンパビリオン出展、RMITエグゼクティブ研修

ファンベースの考え方を基盤として500プロジェクト以上に伴って、ファン感情を可視化する独自指標「ファン度」やコミュニティファイナンスのノウハウでファンベース実践を支援。
連絡先: info@fanbasecompany.com
主要プロジェクト: ファン分析、ファンコミュニティ設計・運営、ファイナンススキーム策定等

街歩きで住民が感じたWell-Beingな場所を地図に記録し、地域の魅力の可視化と共創によるまちづくりを支援します。
連絡先: TIS_WB@ml.tis.co.jp
支援プロジェクト: 地域幸福度可視化アプリ

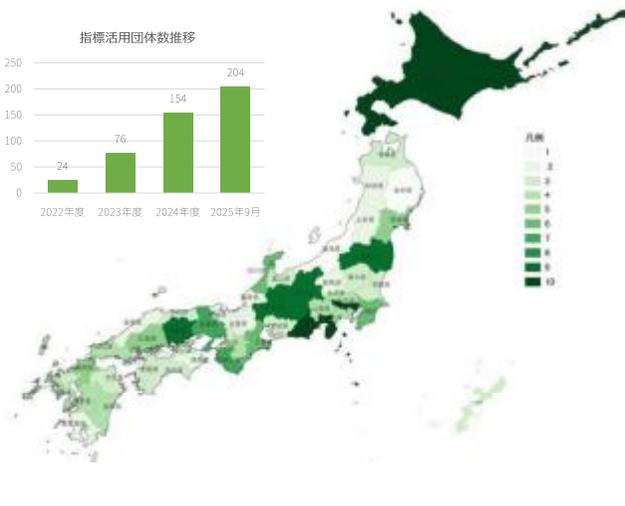
Well-Being指標アンケートや、自治体職員・市民を対象としたワークショップを行い、それらの結果を踏まえた総合計画・総合戦略の策定を支援します。
連絡先: bumon-cfb1@chodai.co.jp
支援プロジェクト: 政策策定、総合計画、スマートシティ構想

政策共創、官民共創のプラットフォームとして市民意見の収集・分析から政策立案などトータルでご支援いたします。
HP: <https://www.polipoli.work/>
連絡先: ppp@polipoli.io
支援プロジェクト: PoliPoli Gov



ゲームフィケーション教材を活用したワークショップの実施、まちづくりアイデアコンテストの開催、まちづくり支援
連絡先: info@iodu.co.jp

指標活用団体数推移



<活用自治体204団体>

都道府県	数	活用団体(県庁:TypeV/2/3採択団体、市庁:TypeV/2/3採択団体以外)
北海道	10	札幌市 江別市 美幌市 紋別市 釧路市 根室市 釧路市 釧路市 釧路市 釧路市
青森県	3	むつ市 青森市 野辺町
岩手県	1	宮古市
宮城県	5	仙台市
秋田県	2	秋田県 秋田県
山形県	2	山形市 山形市
福島県	9	福島県
茨城県	3	つくば市 茨城県 茨城県
栃木県	4	栃木市
群馬県	6	群馬市
東京都	10	東京都
神奈川県	4	横浜市
新潟県	1	新潟市
富山県	3	富山県 富山県 富山県
石川県	6	石川県
福井県	2	福井市 福井市
山梨県	2	山梨市 山梨市
長野県	4	長野県
岐阜県	9	岐阜市
静岡県	10	静岡市
愛知県	3	愛知県 愛知県 愛知県
三重県	6	三重県
滋賀県	2	滋賀市 滋賀市
京都府	2	京都市 京都市
大阪府	3	大阪府 大阪府 大阪府
兵庫県	7	兵庫県
奈良県	4	奈良市
和歌山県	7	和歌山県
鳥取県	3	鳥取市 鳥取市 鳥取市
徳島県	2	徳島市 徳島市
香川県	2	高松市 高松市
愛媛県	3	愛媛県 愛媛県 愛媛県
高知県	5	高知県
佐賀県	3	佐賀市 佐賀市 佐賀市
福岡県	4	福岡市
熊本県	4	熊本市
大分県	4	大分市
鹿児島県	2	鹿児島市 鹿児島市
沖縄県	3	沖縄県 沖縄県 沖縄県

【静岡県】 県全体でのウェルビーイング指標活用を加速中

「幸福度日本一の静岡県」の実現に向け、県民の幸福実感という「主観的要素」を重視した政策形成を県庁全体で進める。

- ウェルビーイング推進官（チーフ・ウェルビーイング・オフィサー）
（役割） 各部署等が所掌するウェルビーイング施策の全体調整と進捗管理
- ウェルビーイング推進会議
（役割） ウェルビーイング推進の方向性（基本方針）の共有



【静岡県】 総合計画の「目指す姿」にウェルビーイングの視点を設定。ウェルビーイング推進会議が、全庁規模で包括的なウェルビーイング施策を推進

区分	内容	時期
幸福実現の把握	○県民意識調査の実施（地域幸福度指標）	毎年実施
	○BIツール（データ分析ツール）の活用	—
県庁の体制整備	○職員へのウェルビーイング研修 ・対象：幹部職員（局長以上）・課長級職員	実施済 5/27～28
	○ウェルビーイング推進会議の開催	5/22
政策形成への反映	○ウェルビーイング指標に基づく事業立案 ・ウェルビーイング指標の分析結果をもとに各部署で事業立案	6～9月
	○職員（若手を含む）による提案 ・自由な発想で、事業や業務改善を提案 ・優良事例を知事に提案	6～9月
	○企業による提案（ピッチイベント） ・ウェルビーイング指標の分析結果をもとにテーマ（行政課題）を設定し、県内外の企業から事業アイデアを募集 ・選定企業（5社程度）によるピッチを実施	6～9月
	○企業による提案（ピッチイベント） ・ウェルビーイング指標の分析結果をもとにテーマ（行政課題）を設定し、県内外の企業から事業アイデアを募集 ・選定企業（5社程度）によるピッチを実施	6～9月
県民への普及啓発	○ウェルビーイングの考え方や県の取組を発信	適任
	○ウェルビーイング週間の創設 ・国際幸福デーを含む1週間で集中的に広報	3/16～22



静岡新聞社は、大手地元メディアとしてウェルビーイング専用サイトを立ち上げ、県を支援

<https://bc.at-s.com/well-being>



【東広島市】 総合計画の策定に地域幸福度（Well-Being）指標を活用

<https://www.city.higashihiroshima.lg.jp/material/files/group/8/honpen.pdf>



【東広島市】 総合計画の策定に地域幸福度（Well-Being）指標を活用

出典「Well-Being指標活用の取り組みと担当部長制の導入について」（東広島市）

【前橋市】 総合計画策定に地域幸福度（Well-Being）指標を活用

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/seisakusushin/gyomu/5/1/1/3247.html>

117

118

【前橋市】 市長との対話の機会の一環として、市民向けのウェルビーイング・ワークショップを主催

<https://www.city.maebashi.gunma.jp/soshiki/seisaku/menokommon/gyomu/1/3/312.html>

119

【東京都品川区】 日本初となる「ウェルビーイング予算」(38.4億円)を編成

https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/inf/pdf/20240118105911_2.pdf

120

【茨城県境町】ウェルビーイング政策の原資にふるさと納税を活用している

<https://www.furusato-tax.jp/city/product/08346>



ローカル・ウェルビーイング・アワード ～ 地域幸福度（ウェルビーイング）指標を活用し、地域課題の解消や幸福度の向上に貢献した活動や提案を表彰

【浜松市】



【小田原市】



【金沢工業大学・野々市市】



121

122

本資料のご活用に向けて

- 本資料は、信頼できると思われる各種公開情報・オープンデータ等に基づいて作成されていますが、当法人はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくご利用者様の決定、行為、及びその結果について、当法人は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、ご利用者様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと明記してください。
- Well-Being City Architecture、ウェルビーイング都市BSCおよびCAMILモデル（含.CAMILのパラドックス及びCAMILダイナミック）は、南雲岳彦に著作権・知的所有権が帰属します。This presentation is the intellectual property of Takehiko Nagumo.

© 2025 Takehiko Nagumo. All Rights Reserved. No part of this presentation may be reproduced, distributed, or transmitted in any form or by any means without prior written permission.

123